

## 民法総則における授業改善

吉田 雅章

### はじめに

民法は5つの編から成り、最後が1044条という膨大な法典である。そのため、民法を開講している大学では、複数の科目を設置しているのが通例である。そして、最初に受講させるのは第1編の総則であるのが大半である。学問的体系からすれば当然のことかもしれないが、受講する学生にとっては極めて過酷なことである。内容の分かりやすさからすれば、第4編親族と第5編相続を最初に学び、その後で、債権各論→債権総論→物権、最後に総則というのが適当ではなかろうか。本稿は、初学者にとって学びにくい民法総則を、FD（授業改善）の観点から少しでも分かりやすくなるように講義を工夫するための手段を検討した、民法学と大学教育学の学際的研究である。

以前より心がけていたのは、民法総則が和歌山大学経済学部における専門教育科目としての民法入門的性格を帯びた科目であり、それゆえ、難解な専門用語をいかに理解しやすく説明するかが重要であり、観念的で抽象的な法的概念を具体的事例で説明する必要があるということである。また、受講生の学習意欲を高めることも大事であり、学習の動機付けを明確にしなければならない。さらに総則であるゆえ、物権法や債権法以上に全体を概観・鳥瞰してから細部への説明に移行することが肝要であると考え。ただ、これは講義をする側からの論理であり、受講する側からの視点に欠けている。そこで、他の教員や学生の意見を聞くことが重要である。具体的には公開授業&検討会や学生参加型授業参観プロジェクトである。

公開授業&検討会についての説明は、FDが相当に浸透している現在では無用であると思う。ただ、その実際を公開する必要があるので、第1章にて掲載する。

学生参加型授業参観プロジェクトは、授業改善に熱心な受講生を活用することである。単発的な教員の授業参観とは異なり、受講学生が継続的に授業を参観し、講義者が運営するホームページ上の掲示板と電子メールなどで授業に対する意見や感想の遣り取りをする取り組みを授業参観プロジェクトと定義した。そして、授業改善を図るにあたり、公開授業&検討会は極めて効果的であるが、具体的な運用面・実行に当たっての可能性・難易度等を考慮すれば、授業改善にもたらす学生参加型授業参観プロジェクトの効果や有益性は公開授業とその検討会に勝るとも劣らないものであると考える。というのは、受講生の中に当該授業に取り組む意欲の非常に強い学生がいる場合、その学生の意見を聴くことは授業改善に非常に有効であるといえる

からである。毎回当該授業を熱心に聴講している学生の場合には、単発的にしか受講できない大学教員よりも、当該授業に対する観察力は鋭いと言えるかもしれない。授業改善を進めていくためには、講義担当教員側の改善に関する努力・工夫と、受け手である学生側の授業改善に対する関心、意欲の調達、態度の向上という双方からのアプローチが必要かつ不可欠である。

さらに、学生参加型授業参観プロジェクトの効果として次のようなことを上げることができると思われる。第一に、学ぶ側の意欲向上が教える側にも変化を及ぼす可能性がある。従来のFDにおける常識「大学教員だけが授業改善に努める」というのに比較し、教員と学生とが一体になって授業改善に取り組む姿は理想的な大学像を目指すものであるといえる。また、授業料を払っている学生、場合によっては保護者に対する説明責任を果たすことにもなりうる。近年高まってきている大学教育の享受者のコスト意識に対する説明であるといえる。第二に、学生参加による大学教育の改善を図るものであるから、大学としての教育・授業の質的向上につながり、授業参観プロジェクトに参加していない一般学生の学びの充実にまで寄与するものでもある。さらには、近年積極性の乏しくなってきた大学生の学びに対する意欲を喚起することにもつながることが期待される。第三に、学生参加型授業参観プロジェクトは学生参画型教育改善の一部を形成するものであり、学生と教職員と一緒に教育改善・授業改善を議論し推進しようとするものである。負担からすれば、教員だけで授業改善を進めるよりはるかに労力とエネルギーを必要とするものであり、学生と共に授業改善に取り組むことは高く評価されて然るべきものである。また、時代の流れから考慮しても、学生のニーズを適切に受け止めることは、消費者主権という考え方からも当然のことであり、学生参加・参画型授業改善を真剣に考えることは適切であると思われる。第四に、教員集団だけの教育改善が行き詰まりを見せている現実、大学関係者なら誰でも感じていることであり、「FDのような教員側の問題に学生が口を挟む必要があるのか、また学生にその能力があるのか」という疑念やFDの理想論、教員の社会的責任論などを振りかざしても全く説得力はないのであって、むしろ、学生の積極性が授業自体を変革することにつながり、ひいては大学教育をより良い方向に導くのだという意識を持つことは極めて重要なことである。大学の構成員全体が深い関心を寄せる形での授業改善は、大学の教育改善をより一層推進しやすい方向へ導いてくれるものである。

従って、第2章で2003年度後期の学生参加型授業参観プロジェクトを、第3章で2005年度前期の学生参加型授業参観プロジェクトを、第4章で2006年度後期の学生参加型授業参観プロジェクトをそれぞれ掲載する。

## 第1章 2003年10月の公開授業後の検討会

(初出：平成15年度和歌山大学「大学特別経費」研究報告書)

2003年10月24日に民法総則の第4回講義を公開授業とし、講義直後に検討会を実施した。

参観していただいた教員には以下のような配付資料を渡した。

「1 はじめに：授業後の検討会の議論こそが授業改善にとって極めて有益と考えており、この公開授業は、その議論の材料を提供すること、たたき台となることを意図して企画しております。受講生に対しては、前回までの授業で、公開授業の実施と参観の先生の存在とを周知徹底済みです。本日午前11時より地域共同研究センター1階の多目的研究室にて検討会を開催します。60分程度で終了する予定です。是非ともご参加下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、ご都合により検討会にご参加いただけない先生には、恐縮ですが、末尾のメモ用紙にご意見・ご感想をご記入いただきまして吉田までお渡し下さい。検討会の参考にさせていただく予定です。

2 民法の全般的な講義方針（前回の公開授業でも記述したことです）：専門教育科目の民法としては、総則、物権、債権総論、債権各論、親族・相続、PL法6科目を担当しており、全科目に共通して、最初に民法の入門的講義をし、全体を概観・鳥瞰してから細部への説明に移行するパターンをとるように心がけております。徐々に、専門用語の難解さを十分に納得させた上で、抽象的な概念を具体的事例で説明するようにし、民法学習の必要性、言い換えれば動機付けを明確にし、受講生の学習意欲・研究意欲をかき立てることができればと考えております。上記6つすべての民法の講義におきまして、民法の専門的知識を理解しやすい形で供給して、受講生の民法に対する興味を持たせ、自主的に研究してくれることを目標としております。民法が経済生活において実に重要な役割を担っていることに気づいてくれればさらに良いと考えております。六法を常にひもとき、自ら進んでテキストを読み進めてくれることを強く望んでおります。また、基本的に、各論を先に勉強して、その後で総論を勉強する方が理解しやすいと思ひまして、今年度は前期に物権を、後期に民法総則を開講することにしました。

3 本講義（民法〔総則〕）のねらい：民法は、人の経済生活に関する部分と、家族生活に関する部分とから成り立っており、民法典第1編総則は、民法典の形式からすれば民法全体の通則のように思われるかもしれないが、実際には、財産法に関する通則というべきであり、家族法である第4編親族・第5編相続に対しては、必ずしも通則性を有するものではありません。しかも、第1編総則を勉強すれば、第2編物権・第3編債権を勉強しなくても財産法の大体の全体像がわかるというものでもなく、総則・物権・債権すべてを勉強してやっと財産法の輪郭がわかりはじめるといって良いものです。さらに、実に抽象的な専門用語を記憶しなければならず、極めて難解のものであると言わざるを得ません。しかし、本講義においては、日常生活において一般の人がたびたび出会うような具体的な例を用いて、民法総則の基本的概念をできるだけわかりやすく説明することを心がけます。

4 シラバスに掲載した授業計画とこれまで3回の講義：

シラバスに掲載しました授業計画は次の通りです。

1 民法典の概括（民法典の第1編総則から第5編相続まで、民法全体を概観します）

- 2 民法第1編総則の概観（権利の主体・客体，法律関係の変動）
- 3 人（特に権利能力・意思能力・行為能力）
- 4 法人（法人の意義から権利能力なき社団まで）
- 5 物，法律行為の序説
- 6 法律行為の解釈と目的
- 7 法律行為（特に意思の欠缺と瑕疵ある意思表示）
- 8 代理（意義，発生・消滅，顕名主義，表見代理と無権代理など）
- 9 無効と取消，条件・期限と期間，消滅時効と取得時効

（講義が9回ということではありません）

実際の先週までの3回の講義は次の通りです。

（第1回） 10月3日 「イントロダクション」

（第2回） 10月10日 「民法の概観」

（第3回） 10月17日 「民法の基本原則」

#### 5 本日の講義の予定—「権利の主体」

- ①前回からのつなぎ（1週間以上前に本案を書いております関係上，詳細は未定です）
- ②テキスト33頁～62頁をさらっと目を通す
- ③テキスト上記範囲の重要な専門用語を指摘する
- ④「自然人」に関する説明
- ⑤時間的余裕があれば「法人」に入る
- ⑥小テスト「制限能力者について具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。」

今年度は，前回の時にも申し上げましたが，昨年度に引き続きまして，公開授業&検討会の開催，すなわち，公開授業&検討会のノウハウの蓄積だけでなく，検討会の意義を見出し，どのように展開してゆくかを模索してゆくことも，公開授業研究会の大きな課題であると考えております。また，それがメタ検討会の第1の課題であるとも考えております。ご協力賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。」

#### 2003年10月24日実施 公開授業後の検討会

●吉田：お配りしました授業案から，今日は，大幅に変更致しました。その理由ですが，授業案は先週の講義を行なう前に作成しまして，今日初めに説明しました部分は，既に終わっているという前提で，作成しましたもので，予定が変わってしまいました。今日だけで，制限能力者の制度，未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人，すべてを説明するのは不可能ですので，重要なところを，テキストで指摘して，学生にまとめさせ，理解度を高めていこうと，そういう狙いで進めました。それで，まず出席ですが，5分で取ろうと思いました。前回も，大体5分でおさまりました。今日も5分位だったと思います。出席を取りまして，小テストが駄目でもオーケーだと，そういうつもりです。最初は，前回の積み残しである，私権行使の原則を説明しました。あそこは，非常に重要で，いかに簡単に伝えようかと。本当は，ここだけ

で、1コマ使ってもいいくらいのところですよ。それと後半の、制限能力者の説明。この2つを1コマでするのは、初めから無理だと分かっていた。だから簡単に説明しようと。後ろからマイクを回したのは、学生を前に座らせようという事と、学生は、どれくらい条文が読めるか把握しなければいけなかったからです。上手くいったかどうか。それと、小テストをメールで送ってこいと言いましたが、それが上手くいったかは、来週の、締切りを待たないと。優秀な答案がありましたら、大学特別経費の報告書に、載せたいと思います。名前は載せないで、何期の学生で、今までどれくらい民法の授業を取ったかを、併せて掲載したい。今回、メールで小テストにしましたので、コピーする学生が出てくるのが心配です。それでは、ご意見をお願いします。

●大学教員 A：私は英語担当です。久しぶりに先生の講義を見学させていただきました。前は教養科目でしたが、初めて専門科目を見せていただきました。まず、話すべき事を、どれくらい効果的に伝えられているかという点で、前は、ほとんど完成の域に達していたと思いますが、今日は、まだ改善の余地があると思いました。先生の事ですら、改善されていくと思いますが。それと、周辺の事ですが、マイクの音量の調節は、できないんですか？

●吉田：教卓の下にありますが、ロックされていて。それに、下手に調整すると、雑音が強烈になってしまいます。

●大学教員 A：私たちは、一番後ろにいたんですが、もう少し、よく聞こえたらいいなと思いました。学生は静かでしたが、大人数ですから、ちょっとした身動きでも、声が聞こえにくくなりますし。学生は、意見を求められると、簡単な事だから、答えればいいのかと思うんですが、なかなか難しいですね。ただ、読みなさいと言えば、ちゃんと読んでいましたし、よく読めていると思いました。私は、1回生の講義をおもに持っていますが、英語はもちろん、日本語も下手ですね。当ててみると。マイクを後ろから回すのは、効果はどうなのかなと。週替わりで当てる場所を変えていくということもあると。

●大学教員 B：狙いがはっきりしている中で、それを、どういう風に進めるかという手法の中で、先生は、民法を読ませる。そして、大事な部分は、先生が読むという形でした。そういう意味で、制限能力者というのを、いかに理解させるかという事で、私も、最近変わったという事は知らなかったのですが、制度が変更された背景が重要だったと思うのです。そこが伝わったのかなと。今度の小テストに出てくると思うのですが。社会的な意義といいますか、権利といいますか、そのなかで、障害者を含めた社会の中で、今までの捕らえ方に問題があったという事、それから認知症で、成年後見人という制度を活用していかなければならないが、上手く機能していないという現実を、どう捕らえさせるかという辺りが大事だと。その辺りを、どう考えておられるのかと。あと、最初は携帯で出席を取られたと思うんですが、どう処理されるのかなと。それと、長いレポートが、メールできたら、大変だと思うんですがどうでしょう。私も、百人くらいの講義でメールを使っていた事もありますが、処理が大変だし、遅れてきた学生をどうするかなど問題がありまして。その辺り、教えていただければ。

●大学教員 C：私も、何年前か、学生時代、この辺りを聞いた訳ですが、その立場から言いますと、1コマで、おさまるような領域ではないなと。しかも、禁治産者、準禁治産者など、あまり現実に学生が体験していない話で、制度はあるだろうが、実際はどうなのかなと、分かっていないだろうなと。もちろん、その点を、先生がご説明された訳ですが、やはり分かりにくかっただろうと。更に、無効、取り消しの話も出てきましたし、法律学の宿命で、ある程度、全体がわからないと、仕方がないのですが、その点から申しますと、今日はカットされました、未成年の話を読まれたほうがよかったと思うんです。誰しものが未成年だった訳です。この辺りは進め方がいろいろあると思いますが。もう1点、はじめに説明された、民法の基本原則、今回は、どの辺りまで説明されていたんですか。



●吉田：全くやっていなくて、基本原理までです。

●大学教員C：そこも重要ですよ。時間の都合で、大変だなと。

●大学教員D：この分野は、内容が多彩なので、私も、未成年者を説明されたらよかったと思いました。それから、成年後見に関してですが、平成12年改正という事で、議論はそれ以前になされていた訳で、今の学生には、馴染みがないと思います。ですから、前に使われていた、目で見える教材、あれを使えばいいと思います。小テストの締切りは？

●吉田：月曜の24時。もし、月曜に講義があって、というのを考えまして。土日は、大学でパソコンが使えません。月曜日、4コマすべて講義があったら、いけませんので。

●大学教員D：いつもですか？

●吉田：いつもは、紙で、講義が終わった残り時間でやっていまして、待っても、当日の12時まで。今日の場合は携帯を持っていない学生もいますので、大学で作るというのもあります。

●大学教員E：私は素人ですが、よく分かりました。ところで、今日の講義は選択科目との事ですが、1学科1コース？

●吉田：経済学部全部が対象です。

●大学教員E：1年生からですか。

●吉田：はい。

●大学教員E：そうすると、学生のモチベーションが高いですね。一生懸命聞いていましたし。シス工とは違います。驚きました。前回、先生の公開授業では、マイクを頻繁に回されましたが、今日は後半はあまり使われませんでした。時間の都合ですか。

●吉田：はい。

●大学教員E：私が、個人的に興味を持ったのは、最近、自己破産が話題になっていますが、その時に制約があるといわれますよね。それと、今日の内容との関連など、聞いてみたいと思いました。

●大学教員F：私も、久しぶりに先生の講義をお聞きしました。本日、気になったのは、時間がなくて読んでおいて下さいと、前は言われなかったと思うのですが、それが、3、4回できました。時間が押してくるから、省略というのであれば、今回の場合は、小テストが宿題でしたから、90分フルに使ってもよかったかなと。カットしてしまうと、条文が主体になると思いますが、民法の場合は、例示が大事だと思うんですね。今日も、2つくらいは出ましたが、もっと出して、社会との関係を説明されたいと思いました。携帯で出席は、面白いからやってみたいです。それと、出席を点数に加味するという話ですが、この前、シス工が評価を受けた時、「出席点とは何事であるか」と言われまして。試験にしろと。今年からは、出席は取っていますが、出席2/3ないのは、試験を受けさせないという事にしました。そうすると、出てきますよね。寝てますけど。そういう状況です。

●吉田：講義の進行順で、質問にお答えします。まず携帯メールで、出席という点ですが、あれだけで、点数を若干は付けますが、その後の小テストもありまして、両方だと考えています。そして、あれを繰り返していると、メールアドレスが分かりますから、他人の分も、一台の携帯からというのは撃退できると思います。そして、誰が何時に教室に来たか、分かると思います。メールを打たせる事によりまして、いったん携帯を出させて、そして、しまわせるという、携帯を講義中に使わせないというのが狙いなんです。1回携帯を出させてから、改めて片付けさせる方が、効果があると聞きまして、そのために出席を取るという作業を組み込むと、学生も、携帯を出す行為に意味があると考えますから。それで考えました。できるだけ、素早くしないといけませんので。休んでいる友人に、メールをして、このアドレスにメールしろと、それを防ぐためにも5分。そして、終了間際に小テストをしたり、今日のようにメールで小テストを

出させるのは初めてですが、それをする事によって、聞いていたかが分かるかなと。ただコピーの問題がありますが。するな、とは言いましたが。今までのデータもありますから、分かるとは思いますが。

●大学教員 A：メールアドレスは、先生のアドレスですよね。毎回同じですか。

●吉田：変えています。6、7つありますから、ローテーションします。一覧表で、件名が出ますから、手間は掛からないです。フリーメールがありますし。ただ容量の問題がありますから、小テストは難しいかなと。

●大学教員 E：件名に、何期何番、名前を書けとおっしゃいましたが、みんな守っていますか？

●吉田：どこかの機種は、件名が打てないらしいですが、その学生以外は。本文なしの件名だけですから、2メガの2パーセントくらいしか使ってなかったですね。ですから、小テストもいけそうです。

●大学教員 A：携帯で、長いレポートが書けるんですか？

●吉田：3つぐらいに分けて送るように。それを1つにすると、普段紙に書いているくらいの量になっています。その質問は今日の講義の後にも出ました。同様に添付メールの質問もありましたが、ウィルスの問題がありますので、できるだけ避けてほしいと。プロバイダのサービスで、ウィルスらしきものは削除というのがありますから、届いていないというトラブルが起こる可能性があるので、避けて下さいと。

●大学教員 A：入力自体は、大変では。

●吉田：速いそうです。ゼミ生に聞くと、パソコンより速いと言う学生もいました。携帯から、大学の自分のアドレスに送って置いて、大学のパソコンでレジュメを作ると言う学生もいます。

●大学教員 E：携帯なら電車の中でも作れますしね。

●吉田：携帯を持っていない学生もいますが、大学で、全員パソコンが使える状態にありますので、問題はないかなと。後ろからマイクを回すのは、前に座らせる狙いです。学生との対話も大事ですが、やはり前に座らせたい。マイクを回さない時は、前の席が空きますので。絶対に前に座らせないといいません。他の先生の講義に比べますと、私の講義は、前に座ってくれていますが、やはりマイクを回さないと、後ろの方にいきますので。マイクを回す意味は、あるかなと思います。読めといえば、ちゃんと読んでくれますが、意見は、なかなか言ってくれない点は、何とかしたい。京大の公開授業では、学生は、結構当てられると、喋っていますね。うちでも、ある程度は喋ってほしい。それをする事によって、就職活動でも、喋れる学生になると思いますので。その予行演習の意味を込めて、マイクをまわす授業も、やっていきたい。内容に関して、成年後見制度は、もっと深くやらないといけないのですが、民法総則を、半期15回程度で終わらせようとするれば、今日のところは、1回で説明せざるを得ない。民法で、一番大事なのは、709条で、総則では、債権総論・各論との関わりで、法律行為になると思います。それが第4章でして、今日は第1章ですから、あまり時間を掛けられません。もちろん例示を出せば、いいんですが、余り出す事が出来ませんでした。法務省のホームページから、資料のダウンロードもしているんですが。配ってもよかったんですが、受講登録の人数が、分かっているという問題もありまして、配れませんでした。出席者は120位ですが。テキストは買うように言ってますので、大事なところを指摘して、読ませて、小テストでまとめさせて、今日のところは、終わらせようと考えました。未成年者のところを、詳しくというご意見ですが、そうした方が、理解させやすいかとも思うのですが、今回の制度改革で、禁治産者、準禁治産者の制度が変わって、未成年者は変わっていないので、やはり変更になった方を知らせないといけないという問題もありまして、未成年者は触れませんでした。法学部であれば、総則の範囲の途中で、終わりという方法もあるんですが、経済学部ですので、すべて触れて、公務員試験の民法、司法書士の民法、公認会計士の民法に対応出来る知識を、広く浅く伝えたいというのがあります。法学部では、狭く深く、でもいいと思うのですが、うちは経済学部ですので、あまり資格試験に出ないところに、時間を割けないという点も

あります。平成2年から講義をやっていますが、その辺りの問題が、なかなか解決出来ておりません。六法を読ませるという点について、受講者が全学年で、他の民法の講義を取った事がない人、たくさん取っている人の区別もないので、こういう形にならざるを得ません。1年は、駄目とか、法学概論を取った者だけとか、条件を付ければ別ですが、今のままでは、仕方ないです。今日の、私自身の講義の出来とすれば悪いです。12月に、公開授業を行なうのであれば、参観の先生から、高い点数をいただける自信がありますが。10月で、専門科目という条件にありますので、10月で5回目という条件を加味すれば、出来は上々かなと。

●大学教員A：京大の田中毎実先生は、いつもおっしゃいますが、上手な人は、こういう事をやる必要がないと。もっと、よくする余地があるから、検討する価値があるんだと。だから今日のように、まだ完成していない講義の方が、見せていただく側は参考になります。ところで、何期の学生は何人とか、もう分かっておりますか。

●吉田：1年生は20人までだと。10人はいると思いますが。

●大学教員F：全学年、経験に関係なく、受講しているとの事ですが、やはり、概論は取っておくとか、そういう条件は付けないと。英語は、初級を取らずに、上級にいけない訳で。システム工学部は、積み上げで、下を取らずに上は取れませんから。例えば、今日は総則の講義ですが、債権を取ってから、総則を取ってもいいわけですか。

●吉田：はい。むしろ、その法が、望ましいと考えておりまして。

●大学教員F：でも、取る順番、モデルコースは、学生に見せてやった方が、いいと思いますが。

●吉田：民法に関しましては、総則、物権、債権と順番にやる方法もありますが、総則を最後にやった方が、分かりやすいというパターンもありまして。僕は、後者の考えなんです。それと、モデルコースに関しまして、それを提示してやるためには、講義を、毎年開講するという前提条件がありまして。民法は、私の担当が6つありまして、担当は私1人です。2年か3年に1回しか出来ません。ですから、モデルコースを構築出来なくなっております。それで、最初の間に、基本的な事をたたき込んでおいて、難しい事は後に持っていくと。その科目の中で、初歩的な事もやらざるを得ないという、事情もあります。法学部では設定出来ると思いますが、経済学部です。やむを得ないと。受講生でさえ、総則が、なぜ後期にあるのかという、アンケートの答えがありましたので。

●大学教員F：FDからは外れるんですが「だから小さな大学は」って言われるんですよ。毎年、開講していない訳ですから、学生の勉強の効率が落ちますよね。だから、大学は合併していかないと、という話になる訳で。

●大学教員A：どうなのでしょう。法学部でないという点がありますよね。経済学部としてみれば、うちは規模は小さくないですね。

●吉田：比較的、大きい方だと。

●大学教員F：法学部のある大学であれば、そこから借りてきてもいいわけで。よそから借りてくる事も出来ます。昔みたいに、東京にでていくのが、大変という訳ではないですし、小さい大学不要論もあります。

●大学教員A：今日の出席者は、大体が、大きい大学出身だと思いますが、特に文系では、最初は、学生は専門に分かれていけませんので、教養課程に、何千人と放り込まれて、その中の1人なんですよ。授業は、一方的になされるだけだし。自分が、存在しているという感じが薄かったですよ。最初の2年くらいは。それに比べて、小さい大学は、少人数の授業をやったり、居心地はいいと思います。そういうメリットは大きいと思います。



- 大学教員 F：学生に対する、サービスですから。今は、効率化を言われますから。半分、愚痴ですが。
- 吉田：経済学部における法学を論じると、どうしてもこうなりますね。本当は、経済学部における、経済や経営を論じるべきなのですが。今後、公開授業がありますが。経済・経営も、スタッフは不足していると思います。少人数科目を作るがために、そちらに、人数を割くので、専門科目は疎かになっていますし、経済は、夜間主がありまして、そちらも講義を行ないますから。大学院も昼夜ありますし。昼間の専門科目へのしわよせが来ております。法学だけではなく、経済・経営も同じですね。会計は、はっきりスタッフが足りないとの事です。経済は、学科が3つありまして、市場環境学科の中に、講座が3つあります。法学教員が7, 8人いるんですが、学科の学生は、自分の学科で何単位取って、他学科で何単位取って、というのがありますので、経済、経営でさえ、スタッフは苦しいでしょうね。こういう問題は、大きくなりますので、話は変えますが。今日は、中国で民法を勉強されていて、今は僕のゼミに参加されている、大学院生 X さんに来ていただきましたが、中国の講義と比べてどうでしたか。
- 大学院生 X：中国の講義は、先生の言われた通り、物権と債権を勉強して、総則を勉強します。その方が、学生は分かりやすいと思います。学生は、普通勉強する時、問題意識を持っていますが、勉強する時、総論から勉強すると、抽象すぎて、興味がなくなってしまう可能性があります。物権・債権から勉強して、色々な問題を勉強すると、興味が出てくると思います。後で、総則を勉強して、ああ、なるほどと。レベルが高くなると思います。
- 吉田：具体的なところから、抽象的なところに行く方がいいというお話ですね。
- 大学院生 X：はい。
- 吉田：それは、中国でも日本でも同じですね。
- 大学院生 X：はい。中国でも、時々若い先生が、そういう方法を使って、学長なんかが、それに反対して、中止したという事もあります。学生として、その方がいいと思いますが。
- 吉田：京大の公開授業でも、大学院の外国人留学生に入って貰って、日本人に気の付かない視点を、出される事もあります。他に質問ありますでしょうか。
- 大学教員 A：予習は課されますか。
- 吉田：いいえ。テキストの順番にやっていきますので、次週は続きといつも言っています。今日は言うのを忘れましたが。ホームページにも書いています。でも、予習はしてくれないです。今まで、優秀な学生がいましたが、そういう学生でも予習はしてくれません。復習はやってきますが。今まで、予習してきた学生は、見た事がないですね。
- 大学教員 A：英語はやってきますけど。
- 大学教員 F：躰ですかね。
- 大学教員 A：最初からの、思い込みというもの。
- 大学教員 B：授業の展開が、そうなっているからでしょうね。例えば、今日でいうと、信義則の質問をされましたよね。あれは、どう問われているか、教師の意図が、学生に伝わっていないと思うんです。それがちゃんと伝われば、予習もやってくると思いますが。こういう考え方と、こういう考え方があって、私はこちらを選ぶという、選択した物に意義があって、意義付けが出来るという、そうなれば、意見が言えると思うんですね。でも、今日の場合は、判断のしようがなかったんでしょうね。その、考えるベースがあって、意見を求めないと、いい加減なコミュニケーションしか出来ませんよね。
- 大学教員 C：ただ、法律学の場合は、予習する危険性も、よく言われる事でして。抽象論の書いてある点を、先に読ませて、間違えて理解されても危険ですし。
- 吉田：やはり、よほど考えた教材を選んだ上で、予習をさせないと。

- 大学教員 C：一度思い込みますと、最後まで引きずりますので。
- 大学教員 A：英語は、言われた事だけは、予習してきますけどね。
- 大学教員 F：中学、高校と癖がついてるんでしょうね。
- 吉田：英語の公開授業を、今まで何回か見ていますが、当たって、点数に響くのが分かっておりますし。当たったら、その後、学生はリラックスしてますよね。当たるまでは、予習したのを、必死になって反芻している感じですが。
- 大学教員 A：私は、英語の授業をやっていて、学生が何を考えているかに、神経が行き渡りませんが、学生は当たるまで必死ですか。
- 吉田：身構えているように感じられますよね。
- 大学教員 F：はい。発表が終わったら、ほっとしてますね。
- 吉田：それまでは、予習の結果は反映されますが、当てられた後は、予習の内容は飛んでしまっていると思います。やはり予習は、成績に直結したらやるでしょうね。民法に関しては、復習に関しては、やっていますね。時間になりました、本日は有り難うございました。

## 第2章 2003年度の学生参加型授業参観プロジェクト

筆者が個人的に契約していたプロバイダが無料で提供していたホームページに掲示板があり、これに毎時間の講義内容を記載した。それに対して受講学生がメールで返答してくれたものを掲載する。(初出：平成15年度和歌山大学「大学特別経費」研究報告書)

### 第1回 2003年10月3日

吉田・掲示板：「オリエンテーション的なもので、シラバスとその変更点について最初に説明しました。すなわち、毎回小テストを実施するとシラバスに明記しましたが、授業の進捗状況によっては実施しない場合があるとか、オフィスアワーは木曜1・2限ですが本講義直後の金曜3・4限に入室してもらっても結構とか言いました。それから、授業の狙いや今後の予定などをシラバスに沿って説明してから、民法総則の内容に少しだけ言及して、アンケートを採って終わりました。次回は、民法全体を概観する予定です。」

### 第2回 10月10日

吉田・掲示板：「テキストは生協の書籍売場で既に売り切れてしまったと聞きましたので、六法だけを利用した講義にしました。テーマは民法概観で、まず、第4編親族と第5編相続の重要な概念を説明しました。次に、第1編から第3編の財産法を極めて大雑把に鳥瞰しましたが、講義した内容を列挙しますと、物権と債権との相異、民法が規定する10個の物権、民法177条と不動産登記、典型契約、売買契約における債務不履行と瑕疵担保責任の具体的事例、法律行為と契約、取得時効と消滅時効などでした。可能ならば小テストを実施しようと考えておりましたが、時間的に不可能でした。次回は、民法の意義・基本原理や私権行使の原則などから、余裕があれば、権利の主体に入ろうと計画しております。なお、再来週の10月24日には公開授業&検討会を実施する予定です。」

### 第3回 10月17日

吉田・掲示板：「最初にケータイを使っでの出欠調査をダメもとで試行しました。少し手間取りましたが、講義後研究室に戻って点検した所、成功したようで、次回から3分程度で100人以上の出席を取ることが可能だと思います。なお、本日はマイクの調子を事務の人に見てもらったこともあり、以上の作業に15分費やしてしまいました。本日の予定は「民法の基本原則」だったのですが、その前置きとなる基本的な専

専門用語等を先に説明しました。具体的には、民法の意義・六法・公法と私法・民事法と刑事法・実体法と手続法・一般法と特別法・任意法規と強行法規・慣習と判例と条理などです。そして、個人の平等と権利主体性、私的自治の原則、所有権絶対の原則、過失責任主義を解説しました。その後で、公共の福祉・信義誠実の原則・権利濫用の禁止を説明する予定でしたが、時間切れとなってしまいました。次回の講義の最初に説明する予定です。今回は公開授業で何人かの先生方が参観に来られ、講義後検討会をする予定です。内容は、本日の残りから、権利主体としての人（自然人）に入ります。」

（出欠調査は欠席や遅刻をなくす手段であり、成績評価には無関係である。成績は小テストと定期試験とで評価した。）

#### 第4回 10月24日

吉田・掲示板：「最初にケータイを使つての出欠調査を前回に引き続き実施しました。今回は5分でできましたが、ドコモのケータイは少し遅れて（ひどいケースは24時間以上遅れて）届きますので何人であったのかは正確に把握することはできませんが100名は軽く超えていたと思います。本日は前回説明できなかった公共の福祉・信義誠実の原則・権利濫用の禁止に言及し、成年後見制度を中核とする「権利主体」について講義しました。しかし、あまりに内容の豊富な箇所でありながら、15回程度の講義で民法総則全般を言及するという大前提のために、本日の講義1回しか割くことはできませんでした。従いまして、未成年者・成年被後見人（以前は禁治産者）・被保佐人（以前は準禁治産者）・被補助人について黒板で簡単に概要を説明し、テキストの重要な箇所を指摘し、その後で—上記の4者についてまとめよ—という趣旨の小テストを実施して終了としました。なお、この小テストはメールにて提出せよ、絶対に他人の解答をコピー＆貼り付けすることのないように、という注意を出しました。また、本日の講義は公開授業で、6人の先生に参観していただきました。午前11時より1時間余りにわたり、地域共同研究センター1階の多目的研究室で検討会を開催しました。この内容は平成16年3月発行予定の大学特別経費研究報告書『公開授業と授業改善 第3号』に掲載します。今回は法人を講義する予定ですが、是非とも受講生には予習をして出席されることを希望します。」

#### 第5回 10月31日

吉田・掲示板：「最初にケータイを使つての出欠調査を前回に引き続き実施しました。メールアドレスはこれまでとは別のフリーメールを利用しました。最終的な出席者は140名を少し超えていたと思います。資料はB4用紙で3枚を用意し、1枚は前回の小テストで書いてほしかった成年後見制度をまとめたもので、残り2枚は本日の講義内容である法人をまとめたものでした。重要な概念として、社団法人と財団法人、公益法人・営利法人・中間法人、定款と寄附行為、権利能力なき社団、法人の能力、そして、法人の消滅などを説明しました。小テストは—権利能力なき社団についてまとめよ—にしました。来週の11月7日は大学祭のため授業休止ですが、次回11月14日は、権利の客体：物を講義します。」

学生モニターG：「私は、前期のときから吉田先生の民法の講義を受講させてもらっています。私は将来、公務員になりたいので、役に立つだろうと思って受講しました。講義内容は、一つ一つ丁寧に話されていると感じます。特に一番印象に残っているのは、民法「物権」のときの抵当権です。先生は、何度も抵当権について熱心に教えてくれました。その中で、私はそれについてももちろんよく理解できたのですが、それよりその分野がいかに大切かという先生の意図をよく感じ取れることができました。そういう講義の進め方は、とても良いと思われます。もう一つ良かった点は、情報をこまめに教えてくれることです。最近、私のように公務員を目指す学生がとても増加していると思います。公務員や法律関係の資格についても、授業の合間にそのような関連事項を教えてくださいるのでとても良いと思われます。このような授業の進め方は、学生の目を非常に引き付けられるのではないのでしょうか。」

## 第6回 11月14日

吉田・掲示板：「ケータイを使つての出席調査をこれまで同様に実施しました。メールアドレスはヤフーのフリーメールを利用しました。最初に出席をとるので遅刻が非常に少ないように感じます。まず、前回の補足として法人学説や法人格否認の法理、利益相反行為などを説明し、以上で実に簡略ですが、権利の主体は終わりということにしました。そして、権利に客体である「物」に入り、有体物、動産と不動産、主物と従物、元物と果実などを言及しました。小テストは一人格否認の法理について、具体的に例を挙げて、わかりやすく説明せよにしました。次回は法律行為に入ります。非常に難解な箇所ですので予習されることを期待しております。」

学生モニター G：「私は、改めて出席のとり方に感心させられました。携帯でとった後に、小テストを行うことによって、ずるでなくなると思いました。友達から聞いてメールを送っても、小テストをしないとばれることに気づきました。その方法は、非常によいと感じました。本題に入ると、今日、私が一番目に付いたのは、法人格否認の法理の説明のときです。先生は、いつも絵や例を挙げて説明してくださるのですが、そのときの講義の雰囲気がとてもよかったと感じられました。受講生の注目度がより良くなりました。このスタイルは、持続したほうがよいと思います。あと、権利の客体の分野については、民法物権の復習ができて個人的にとってもよかったです。」

学生モニター H：「モニターとしての意識を持って講義を受けてみました。今回も最初携帯での出席をとられていました。説明に多少時間がかかり紙で取る出席より時間がかかるように思います。それでも回を重ねるごとに学生側の対応も早くなり代理出席の可能性も無くいいのではないのでしょうか。法人についての補足は非常にわかりやすかったと思います。たとえの部分も毎回のことながら教科書よりも単純明快でわかりやすかったです。主物や従物、天然果実や法定果実については民法（物権）を受講していたので復習という感じで聞いていました。不意に先生のおっしゃるテレビ番組名（今日は鉄腕 DASH、前はビギナーなど）は集中力がきれかかっているときにふと集中力を取り戻させてくれるように思います。笑みがこぼれる受講生もいて非常にいい感じになると思います。」

## 第7回 11月21日

吉田・掲示板：「ケータイを使つての出席調査を今回も実施しました。後期はいつも教室後方のドアから入室するようにしていますが、ほとんどの受講生がケータイを用意している雰囲気が伺えます。今回は法律行為の説明に終始しました。法律行為の意義、法律行為の種類（単独行為・契約・合同行為）、準法律行為（意思の通知と観念の通知）、事実に契約関係、法律行為の解釈、例文解釈、法律行為自由の原則、公序良俗違反、不法原因給付などに言及しました。強行法規や取り締まり法規なども取り上げたかったのですが、次のような事情があり、次回に残しました。すなわち、大学より禁煙に関するアンケートを配布してほしい旨の依頼があり、ついでにケータイを使用した出席調査や小テストの実施に関するアンケートも採ろうと思いました。そして、先ほどやっと、アンケートの結果に目を通しましたが、ほとんどの受講生がケータイのメールを使った出席調査に賛成しておりました。逆に、メールによる小テストやレポートの提出は、やや反対が多いように思えました。次回は、今回の残りから意思表示に入ります。予習をしてきてほしいのですが、真面目な学生でさえ、復習はしてくれても予習はしてくれません。」

学生モニター G：「今日は、契約のことについて講義を進められました。難しい用語（履行遅滞、催告など）がいくつか出てきて、理解することで精一杯でした。でも、いつも通りに図に表して説明されるので理解することができました。私が今日の講義で一番面白かったのは、法律行為の有効要件の分野です。最近、ニュースでヤミ金、ボッタクリ、詐欺など様々な問題が取り上げられています。そのような問題を例として、図によって説明をしてくださるのでとても解りやすいし、学生も興味津々のようで引きつけられてい

と思います。このように学生の視線をもっと引きつけたら、さらに講義を行いやすいと思います。あと今日の講義の最後に、アンケートで学生の意見も聞くことは、とてもすばらしいと思いました。」

学生モニター H：「今日は最初に授業計画の紙が配られました。初めての試みだと思いますが、あまり必要はないのかなという感じです。今日やる予定がわかるという点ではよいと思いますが、今までどおりでも問題はないと思います。しかし今日の法律行為というところは難しいので内容理解を少しでも容易にするためにと配られたのではないかと思います。法律行為について今日は量も多く内容も難しく深く理解するのは難しかったです。予習していかなかった自分が悪いのですが…。最後に小テストの代わりに行われたアンケートも携帯でということでした。アドレスを打つのに苦労している人もいましたが小テストやアンケートを紙で行うにしても携帯で行うにしてもしっかり聞いている人にとっては問題の無いことなのでどちらでもかまわないと思いました。」

#### 第8回 11月28日

吉田・掲示板：「ケータイを使っでの出席調査を今回も実施しました。前回のアンケートで9割以上の受講生がこれに賛成しておりました。遅刻する学生が減ったために、1コマ目にもかかわらず、教室が非常に静かであるという評価が多かったように思います。今後も引き続き実施することにします。メールによる小テストは約6割が反対でしたので、今後は実施しません。今回の講義内容は、利息制限法と不当利得、強行法規と任意法規そして取締法規、原始的不能と後発的不能、意思表示について（特に意思と表示の不一致）、意思主義と表示主義などでした。心裡留保や虚偽表示まで説明する予定でしたが、中途半端になりそうでしたので次回に講義することにしました。通謀虚偽表示に関する94条2項の類推適用の判例を用意し、ここから小テストをする予定でしたが、一本日の講義内容をまとめよーという小テストに変更しました。」

学生モニター G：「朝が寒くなってきたので、布団から出るのが大変な今日この頃です。さて、今日の講義についてですが、私は取締法規の原始的不能と後発的不能について少し難しくてあまり理解することができませんでした。しかし、意思表示のところについては、前の講義で少しふれているし、現実味を帯びた例をいくつか挙げて説明されたので、学生の皆さんも集中して聞いていたと思います。私自身も自然と講義に引きつけられ、よく理解することができました。何だか今日の講義は、一瞬で90分が過ぎていったような気がします。もう終わりかと思うほどでした。小テストの件に関しては、授業をまじめに聞いていれば、難易度的にみると、私は容易な問題と思います。しかし、居眠りなどをして聞いていない場合には、何が何だかまったくわからないのではないのでしょうか。小テストは、学生がまじめに聞いているかがわかるし、復習というおさらいができるので非常によいと思います。今日の講義では、私語が全くといってなかったので、先生も講義を進めやすかったのではないかと思います。来週の「意思表示」の講義をとても楽しみにしています。」

学生モニター H：「こんにち。今日は20分遅刻してしまいました。申し訳ありません。今後はこのようなことがないように気を引き締めてがんばります。今日は最初の利息制限法のところは聞けませんでした。原始的不能と後発的不能の区別がいまいち曖昧でわかりづかったです。小テストは今日の授業をまとめるといえるものでした。先生が力を入れて説明されたこととそんなに重要でないところがどこかというのが真剣に聞いていればわかるので寝ていた人と真剣に聞いていた人の差が小テストの内容に如実に表れてくると思います。範囲の広さからも内容の差が出てくると思います。そういったことから授業全体をまとめるといえる小テストは良いと思いました。すぐに総復習ができ頭にも深く残ると思います。」

#### 第9回 12月5日

吉田・掲示板：「ケータイを使っでの出席調査を今回も実施しました。まず、法律行為と意思表示について以前までの講義内容の整理をしました。意思表示の欠缺と瑕疵ある意思表示について概括的説明をして、そ



の後で、心裡留保・通謀虚偽表示の個別的説明に入りました。特に94条2項類推適用は、民法の様々な試験で頻出項目ですので、具体的に最高裁判決を例示して可能な限りわかりやすく説明したつもりです。小テストは前回同様—本日の講義内容をまとめよ—ということにしました。次回は、錯誤・詐欺・強迫などを講義する予定です。」

学生モニター G：「今日は、前回にも行った意思表示についてやりました。契約においての意思表示でした。前回では理解することに精一杯で大変でしたが、今回の講義で十分に理解することができました。それに加えて、民法94条第2項の類推適用にもふれていきました。ここは、小料理屋の物件についての売却問題を例にあげ、おもしろかったし、よくわかりました。私は、個人的に類推適用が公務員試験に出るということを知っていて、非常に役に立ちました。また、そのような分野になったら教えてください。前回と今回の講義については、質がよく、内容もよく、非常に素晴らしかったと思います。小テストに関しては、前回と同様の意見です。今年も残り少ないですが、頑張ります。」

学生モニター H：「瑕疵ある意思表示、通謀虚偽表示は前回から重ねて説明された所でよくわかりました。忘れた人も何人かいたようでしたがプリントで判例が配られ、後に先生が説明されることで難しく長々と書いてある判例もわかりやすく、類推適用についてよくわかりました。判例のプリントだけ配られるだけではやはりわかりにくいのでよかったです。今回の小テストも授業をまとめるというものでした。今回のように判例を用いて説明されたときこそ授業をまじめに聞いていないと良い内容のものは書けないと思います。」

#### 第10回 12月12日

吉田・掲示板：「いつものようにケータイを使つての出席調査の後、前回の続きである錯誤について説明をしました。民法95条を逐語的に解説し、テキストにざっと目を通しました。また、錯誤に関しては、いわゆる動機の錯誤が重要ですので、最高裁昭和32年12月19日判決を具体例として取り上げました。ただ、すべての学生が私法概論や法学概論などを受講しているわけではありませんので、三審制といわれる裁判制度や裁判所、民事裁判と刑事裁判、証明責任、弁護士などといった基本的な内容を先に説明しました。さらに、山崎豊子著の新潮文庫『白い巨塔』（そのドラマ化されたものが毎週木曜の午後10時よりフジテレビ系列で放送されております）が医療過誤を取り上げた小説で、民法や民事裁判の実に興味深い参考文献になりますので、かなりの時間を割いて紹介しました。そのため、詐欺と強迫を説明する時間がなくなりましたが、受講生は非常に熱心に聞いてくれたように感じました。小テストは一動機の錯誤についてまとめよ—ということにしました。次回こそは必ず、詐欺と強迫を講義し、さらにその先へと進む予定です。」

学生モニター G：「今日は、動機の錯誤についての講義でした。馬を購入する際の場面については、馬好きな先生ならではの説明のされかたで、私は個人的におもしろかったです。今日はあまり進みませんでした。先生に進められた本はぜひとも読もうと思いました。楽しく民法を勉強できそうですね。今日はとても短くてすみません。来週も頑張ります。」

#### 第11回 2003年12月19日

吉田・掲示板：「ケータイを使つての出席調査をしました。出席している友人から連絡をもらって講義室にはいないのに出席しているかのように見せかけている学生がいます。当初から予想はしていましたが、少なくとも1人はいると本日確信しました。案の定、小テスト前に現れ、小テストはテキスト丸写しのお粗末なものでした。なお、このような受講生は小テストを厳格に実施することにより簡単に見破ることができると思っています。講義内容は、詐欺と強迫に関する民法96条を詳細に説明し、そして意思表示の効力発生時期に関する97条に言及し、無効と取消ならびに条件と期限を簡単に説明しました。無効と取消はこれまで何度も言及しておりましたので、本日の説明でも大丈夫かなと思いますが、条件と

期限については、後日、もし時間的余裕があれば再度言及したいと考えております。1月と2月で多くて4回の講義回数しかありませんので、次回の1月16日は何としても代理に入らなければなりません。小テストは一本日の講義内容をまとめよーにしましたが良く聴いている受講生と聞いていない受講生の差が明確にわかります。』

学生モニター G：「今日はとても寒いですね。学校に来るとき寒いし、風がすごくて大変でした。先生も体に気をつけてください。さて今日の講義についてですが、主に詐欺と強迫についてやっていきました。最初に、サクラを雇って買主をその気にさせるというパターンは、最近よくテレビで目にする事が多いので、聞いていてとても面白かったです。次に、詐欺・強迫の差異について2パターンを用いて明確に説明されたので、とてもよく理解することができました。その説明が終わった後に、さらに教科書でおさらいをするというサイクルは、いつもやられていることですが、とても良いと今回気づきました。説明の合間に、社会に出て行き、このような問題で困ったときの解決法など参考になることを事細かに述べられて、学生みんなには役立ってよいのではないのでしょうか。今年の講義も今日で最後でした。お疲れ様でした。来年からもご指導のほどよろしく願います。今年も一瞬にして時が過ぎていきました。今年も残りわずかですが、お互いに良い年にしましょう。」

学生モニター H：「先週はご迷惑をおかけしました。季節の変わり目ということで体調管理にはいつも以上に気をつけたいといけませんが油断してしまいました。これからはこんなことがないように体調管理には気をつけたいです。96条から98条についての内容でした。いつもどおりのことなのですが最初に先生が例を出しながら全体を通して説明した後に教科書で復習するというやり方は非常にわかりやすいです。教科書の方は少しわかりにくいところもあるので先に黒板で説明された後に大事なところを教科書でもう一度チェックしていくというやり方は頭に内容が残ります。詐欺では第三者が善意であった場合取り戻せないが、強迫の場合は善意でも悪意でも取り戻せるといったような非常に似ていて勘違いしてしまいそうなものがありました。無効と取り消し、期限と条件の違いなどの理解も確認しておきたいです。取り消し後の第三者であるか、取り消し前であるかもきちんと説明されてよかったです。今回が今年最後の授業だと思います。一年間お疲れ様でした。また新年からもよろしく願います。ではよいお年をお迎えください。」

## 第12回 2004年1月16日

吉田・掲示板：「今回は授業評価を実施し、時間の都合上、ケータイによる出席調査は実施しませんでした。配布資料は、実際に管理人のメールアドレスへ送付された架空請求のコピーと、国民生活センターへの取材に基づいて朝日新聞1月11日の朝刊に掲載された「デート商法、新成人注意」という記事のコピーでした。両方とも消費者被害に遭わないための注意喚起をしながら、民法の重要な概念を紹介し、さらに本日の主題である代理への橋渡しを目的とした資料でした。資料の説明の後、民法の逐条的解説に移りました。99条から108条まで（本日は無権代理にまでは入れないと判断しましたので）、それぞれの重要性に応じて具体的な例を挙げて分かりやすく説明したつもりです。そして、後で復習してくれることを期待して、テキストの163頁から181頁までの大事な箇所を指摘し、小テストで締めくくりました。小テストは一本日の講義内容をまとめよーということにしました。」

学生モニター G：「今日は新年一発目の講義でした。定期試験も近づいてきたので、そろそろ総復習に取りかかろうと思います。最近、ニュースなどで取り上げられている心当たりのない請求書が届くというケースをよく耳にします。自分の周りではそのようなことが起こったことがないので、あまり気にしていなかったのですが、吉田先生にもそのようなことが起こったことにとても驚かされました。しかし、冷静な対処の仕方を丁寧に教えてくださったので、よい勉強になりました。私もインターネットで、そのような画像

を見たことあるので内心ドキッとしましたが。今日は、テキストで委任契約のところをもう一度読み返したいです。来週もよろしくお願いします。」

学生モニター H：「新年一回目の授業でした。最近は朝の冷え込みも厳しくなり起きるのがつらくなってきましたがあと3回がんばりたいです。今回は携帯のメールでの出席確認がありませんでした。遅刻者を判別することはできませんが出席していても寝ていては意味のないことなので小テストの内容からそれを把握し多少の遅刻をしても授業を理解していればよいというこの方法もよいと思います。今日は実際に先生のところに送られてきた詐欺の資料が参考資料として配られました。テレビ等でよく耳にすることが身近におこっているという事実を実感できました。名簿の売買も行われているというのは聞いたことがありました。今年成人式を迎えた二十歳なのでデート商法には気をつけたいです。先生がこういった商法への対処法の説明がくわしく自分にもおこりうることなので参考になりました。」

### 第13回 2004年1月23日

吉田・掲示板：「配布資料は1枚だけで、(狭義の)無権代理と表見代理に関する演習問題でした。最初は、広義の無権代理と狭義の無権代理・表見代理についての概略を説明し、その後で、配布資料の演習問題を解説しました。そして、民法の条文(特に109・110・112・113・117条に重点を置いて)を逐条的に解説し、さらにテキストに言及しました。補足的に、無権代理と相続について、本人を無権代理人が相続する場合と無権代理人が本人を相続する場合とに分けて、具体的に例を挙げて説明しました。最後に、一日本の講義内容をまとめよーという小テストを実施しました。」

学生モニター G：「ここ最近、雪も降り、とても寒いですね。今日も学校に来るとき、風も強く、雪も降り、鼻をすする感じです。風邪にはお互い気をつけましょう。今日は前回に引き続き代理についてやっていきました。最初は、何が何だかわからなかったのですが、六法を使いながら説明されたので、無権代理の所と表見代理の所をよく理解することができました。特に109・110・112条の表見代理の説明の際にそれぞれ異なった例で説明してくださって、頭が混乱せずに済むのでとてもよいのではないのでしょうか? 私は個人的に113条の説明が一番わかりやすかったです。民法総則もあと2回です。もう13回も講義を受けたとは思えないくらい早かったです。来週もよろしくお願いします。」

学生モニター H：「最近の冷え込みは厳しいものがあります。今朝は雪もちらつき本格的な冬を感じます。あと2回だと思います。最後までがんばります。本日も代理についての講義でした。狭義の無権代理と表見代理について、くわしく見ていきました。法律の文章にある、第三者や他人といったような、何をする立場かわかりにくい概念を、A・B・Cなどに置き換えてからの図による説明によって非常にわかりやすかったです。進むペースが少し速いように感じたのは私だけでしょうか。でも何とかついていくことができました。携帯の出席が無くなっても遅刻してくる人の数は少ないように感じました。テストまであと少しですがよろしくお願いします。」

### 第14回 2004年1月30日

吉田・掲示板：「当初は時効を中心に講義する予定でしたが、定期試験が迫っていることとこれまでの復習とを兼ねて、演習問題15を配布資料として用意しました。内容は、法律行為と意思表示に関するもの3個、意思表示の瑕疵に関するもの4個、代理に関するもの3個、無効と取消に関するもの2個、時効に関するもの3個、計15個の問題を説明しました。小テストは上記15個の問題のうち、任意の2~5個を解答せよということにしました。来週は、最終講義であり、間違いなく時効を中心に講義します。」

学生モニター G：「今日はおなかの調子が悪くて、授業前と授業の小テスト中にトイレに行ってしまいました。テストも近いので気をつけたいと思います。今日はプリントを使つての授業でした。しかも、実戦問題を行い、以前の復習をしました。私も問題を理解していくと同時に、忘れていたことがあり、また復習

しないといけないと感じさせられました。今回のプリントを使つての問題ということで、どこが一番大事かという先生の意図がわかりました。とてもよかったと思います。先生が問題を解説されていくにつれて周りの学生たちは、自然と先生に引きつけられていました。今日は、受講生の私語がひとつもありませんでした。今までで一番よかったと思います。私は以前にも話したように、公務員になりたいと思っています。先日、問題集を購入しました。前期の民法物権と後期の民法総則の分野を勉強していますが、授業で聞いたことがたくさん出てきました。授業をまじめにうけてよかったです。これからも頑張りたいです。」

学生モニター H：「今日はプリントを使つて大事なところをかいついで、総復習のような感じの講義でした。忘れていたり、理解のあやふやなところの確認ができてよかったと思います。答えの結果だけでなくその過程が説明できるようにしておかないと何の意味もないのでそういったことが今日の小テストで確認できたのではないのでしょうか。来週分内容も少しありましたので、来週しっかり確認したいです。定期試験まで講義はあと 1 回となりました。今日の復習を軸に確認を怠らないようにしたいです。来週もよろしくをお願いします。」

#### 第 15 回 2004 年 2 月 6 日

吉田・掲示板：「最初に、少しだけ来週の定期試験と成績のことを話しました。また、配布資料は時効に関するもので B4 判両面印刷 2 枚でした。講義内容は、取得時効と消滅時効が中心でしたが、時効に入る前に期間を簡単ではありますが一応説明しておきました。そして、時効の意義とその存在理由を、板書にて具体例を挙げて説明した後でテキストにて再確認するという手法を採用しました。取得時効と消滅時効に関しては、代表的な条文を逐条的に解説し、配布資料で確認し、さらにテキストの該当箇所を指示し、自宅で読んでおくようにと言いました。最後に、今回も一本日の講義内容をまとめよーという小テストを実施しました。」

学生モニター G：「今日も授業お疲れ様でした。昨日から冷えこんできて、雪も降ってきました。テスト週間に入るので、体に十分気をつけたいです。今日の講義は時効について行いました。前回少しだけやっていて、今日の授業で理解することができました。民法 162・192 条のところは前期の民法物権でも触れた分野なので懐かしく思いました。今回やった時効のところは、私も含め周りの学生の様子を見てみるとあまり問題ないと思います。民法総則は今日の講義で終了します。半期の間お疲れ様でした、そしてありがとうございました。私はこの 1 年間民法物権総則の講義を受講しました。公務員志望ということで、民法が必修科目だったので受講しました。さまざまなことを教えてくださったので、とても参考になりました。来年度も民法の講義を開講すると聞いたので、ぜひとも受講したいと思います。よろしくをお願いします。」

学生モニター H：「本日で最後の講義となりました。今日は時効についての内容でした。以前にやったことのあることでしたので復習のような感じで聞けたのでわかりやすかったです。1 時間だけでは時間が足りないように感じたのでもう少しゆっくりと時間をかけて説明を聞きたいという気持ちもありました。それは講義全体を通していえることだと思いますが、教科書一冊をもれなくやることは時間てきに不可能なことなので仕方ありません。半年間お疲れ様でした。モニターをするという経験は初めてでどうしていいかわからない状態でした。しかし講義を違った視点から見るといろいろ考えることがありおもしろいと感じるようになりました。来年度からも民法の講義が開講されていたら受講したいと思います。今後もよろしくをお願いします。」

#### 定期試験に関して

従来は、「○○○について述べよ」という問題を出していた。しかし、できるだけ事例式に代

えてゆくべきと考えて、以下のように、形式を変更していった。この点についても学生モニターの意見を求めた。

### 2003 年度後期 民法〔総則〕 定期試験

1 不動産会社 A は客 B に対して、丘陵上の不便な土地であるにもかかわらず、近所に鉄道の駅ができる予定であり、さらに病院や学校、ショッピングセンターなどができるため値上がりすること間違い無しと偽って、時価よりも相当に高額で売却した。B は A との売買契約を履行しなければならないのだろうか。本講義で習得した知識を総動員して B の立場で論述せよ。

2 A は税金を滞納しており、自己の所有する土地が差し押さえられるのを避けるために友人 B に頼みこみ、当該土地を B に売却したことし、A から B への所有権移転登記も済ませた。しかし、B は A に無断でこの土地を第三者 C に売ってしまった。A は C に対して、当該土地の返還を主張することはできるか。必要に応じて場合分けをして解答せよ。

3 A 所有の土地に抵当権を設定することを依頼された B が、A に無断で C との間で当該土地に関する売買契約を締結してしまった。C からの売買契約履行請求に対して、A は応じなければならないのだろうか。適宜、条件を付加して解答せよ。

4 妻に多額の生命保険をかけている A は、殺し屋 B に妻の殺害を依頼した。その着手金は 1000 万円で、成功報酬は 3000 万円という契約であったので、A は既に 1000 万円を B に支払った。しかし、一向に B は行動を起こさないのので、A は B に対して、裁判で 1000 万円の返還を求めることにした。A の訴えは認められ、1000 万円は戻ってくるであろうか（民法総則だけでなく不当利得に関しても言及して解答できれば高評価をする）。

5 取得時効や消滅時効に関して、その意義と存在理由について具体的にわかりやすく論述せよ。

6 詐欺と強迫に関する民法 96 条の第 1 項と第 3 項とを具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。なお、第 3 項の反対解釈を書き忘れないこと。

**試験に対する学生モニター G の感想：**「民法総則の全体講義に対しては、いつも述べている通り、授業中は人数が多いにもかかわらず、私語はゼロといってよいほどでした。まじめに受ける側の立場に立ってみれば非常に受けやすい授業だと思います。私自身も、集中して授業に取り組むところがあるので、毎回あつという間に終わってしまいます。和歌山大学でこのような講義は非常に珍しいと思います。内容的なことを言うと、授業をまじめに聞いていたら、さほど難しいものでもありません。わからなくても次の講義での復習などがあるので、理解することができるのです。特に、各分野で様々な例を挙げて説明されるので非常にわかりやすいですし、だらだら説明する時がないので、私自身もだらけることがありません。このような講義ができるから私語がないのかもしれませんが。その他にも、授業後の小テストの実施も非常に有効的だと思います。先生側からしてみると、学生の授業への取り組み方が明白にわかると思います。私は学生の立場から意見を言わせてもらおうと、小テストでその授業の復習ができるのでよいと思いました。定期テストに関して述べていくと、私も試験に目を通して問題を解いてみました。一見問題数も多いし、時間も足りないと思ってましたが（実際足りませんでした）、授業をまじめに聞いてテスト前に勉強していたら、「この問題はこの分野だ」とか「この問題はあの分野だ」という風にわかると思います。今回の試験の難易度についていうと、私自身は少し難しかったと思いますが、全然解ける範囲だなという印象を受けました。授業評価に対しては、教科書・六法・プリントなどの使い方はとてもよかったです。最初に具体をして後から抽象へと移っていくという授業の進め方抜群でした。後ろに座っていても全然声は聞き



取れるし、板書もよみとることもできました。授業もシラバス通りにも進んだと思うし、総則の範囲も終わらせることもできました。私は、お世辞なしの5点満点です。1年間民法物権・総則お疲れ様でした。いつも言ってるように、私は公務員志望なので先生の授業は本当に役に立ちました。春休みは、民法の範囲を勉強しようと思っています。来年度も民法の債権の講義を受講しようと思っているので、ご指導のほどよろしくお願いします。」

**試験に対する学生モニター H の感想：**「試験問題についてですが、全部で6問でした。試験時間は60分で単純計算で1問10分で解かなければなりません。文字の量にもよりますが、ある程度予測できたような問題でしたので時間内にできるのではないのでしょうか。1から4番までは先日やったプリントとほぼ同じような感じでありましたが、場合わけをして考えなければならなかったりと少し躓くと時間がかかってしまいそうですが、勉強していた人は問題なかったのではないのでしょうか。5、6番に関しては時間が少しかかるのかなと思いました。全体的に難しすぎず簡単すぎずといった問題だと私は感じました。範囲も満遍なく出ていました。民法総則を15回受けての感想として、毎回先生の言う事を聞き逃さずにノートに書くことは大変でしたが、よく理解はできました。ほかのどの授業よりも集中して聞けましたので時間がたつのが早かったです。まわりのみんなも真剣でよい刺激になりましたし、私語も少なくよい環境での講義でした。それも先生の教え方のうまさがあったからこそだと思います。民法といったけっして簡単ではない講義を毎回楽しく受けることができました。また来年度も民法の講義があれば受講したいと思いますのでよろしくお願いします。15回お疲れ様でした。授業評価の項目についてですが、質問事項10個で受講生について、講義方法について、講義内容についてそれぞれ質問されています。適確な質問内容だと思います。これだけのことがわかればこの講義がよいか悪いか、理解されているかいないかの判断基準には十分なると思います。いつからこういう事をやっているか知りませんがやる前と後で本当に成果が出ているのか気になります。」

### 第3章 2005年度の学生参加型授業参観プロジェクト

(初出：和歌山大学UD(FD)報告書)

#### 第1回 2005年4月8日

**吉田・掲示板：**「先ほど講義しました民法〔総則〕第1回講義について報告します。E-301教室で行いましたが、出席者数が推定ですが140名を超えており、教室後部で立って聴いてくれた受講学生が多数出てしまいました。次回は隣のE-302教室に変更となる予定ですので、全受講学生が何とか着席することができるとはなないかと思っています。従って、本日は小テストを実施できませんでした。講義は最初に受講上の案内と注意をしてから、民法を概観しました。全5編という体系と総則の位置付けをざっと説明してから、第1編総則の章別の主な内容について、具体的に例を挙げて分かりやすく説明したつもりです。1章では未成年者と成年後見制度について、第2章では社団法人や財団法人と株式会社との対比、第3章では動産・不動産・無体財産権、第4章では公序良俗の意味と具体例・詐欺・表見代理などについて、第5章では取得時効と消滅時効について、それぞれ可能な限り分かりやすく講義しました(つもりです)。次回は民法の新旧対照条文を印刷・配布して条文に慣れてもらう講義とする予定です。」

#### 第2回 4月15日

**吉田・掲示板：**「第1回はE-301教室で立ち見が出ましたので、E-302教室に変更してもらいました。8割から9割方の座席が埋まっていたので、おそらく160～170名程度の受講学生がいたものと思われます。」

本日は条文に慣れてもらうことがテーマでしたが、実際には民法概観となってしまいました。すなわち、民法の新旧対照条文などの資料をB4用紙で6枚用意しましたが、本日はその中の2枚半を利用して、1編総則・2編物権・3編債権・4編親族・5編相続をざっと説明しました。第1編総則は本講義の対象領域ですので、章ごとに目次に出てくる重要な概念を具体的に例を挙げて分かりやすく解説したつもりです。第2編物権では、民法が規定する10個の物権を説明し、第3編債権では13個の典型契約を中心に説明しました。第4編親族と第5編相続の、いわゆる家族法は次回以降言及する余裕がないと思われますが、結婚・離婚、相続に関する単純承認・限定承認・放棄、遺言などの極めて重要な概念だけを解説しました。その際、本講義にはかなり多数の1回生が受講しているようですので、民事裁判と刑事裁判や、わが国の裁判所の制度など、本来は法学概論で扱う内容にも言及したつもりです。以上の説明で講義時間がほとんどなくなってしまいましたので、今回も小テストを実施せずに講義を終了してしまいました。時間の問題もありましたが、昨日と本日とで受講登録をすることになっており、次回以降は来ない学生もいるかもしれませんが、無理に小テストを実施する必要もないと判断しました。しかし、第3回講義からは何とかして小テストを実施する予定です。なお次回は、民法序論のような内容は後回しにして、人（自然人）を新旧条文を対照しながら講義する予定です。」

**大学院研究生のモニターⅠ（中国人留学生）：**「今日、はじめて学部学生と一緒に、吉田先生の授業を受けました。少し風邪気味であったせいで、体の調子はあまり良くありませんでしたが、具体的な例を示して説明する吉田先生の教え方がすごく気に入って、最後まで興味津々で聴きました。今日の授業は、大体、民法の総則についての説明でしたが、中にはニュースでよく耳にする債権の内容もあるし、身近に起こる相続や婚姻の内容もありました。先生の話によれば、民法の新しい条文が近日中に施行されるということです。これが国民にとって非常に分かりやすく改正されて、民法の勉強が以前より簡単になると考えられます。期待しています。先生、今日はお疲れ様でした。」

### 第3回 4月22日

**吉田・掲示板：**「本日は3回目の講義で、少しくらいは民法序論めいたことを講義をする必要があると思いましたので、民法の意義・民法の法源・民法の基本原則・私権行使の原則など、重要な内容だけに限定して簡潔に言及しました。ただ、中でも、私権行使の原則である権利濫用の禁止には少し時間をかけました。そして、人（自然人）に言及し、権利能力・意思能力・行為能力から制限能力者（未成年者と成年後見制度）に関して話を進めてゆきました。とりわけ、成年被後見人・被保佐人・被補助人の区別に焦点を当てたつもりです。なお、受講者数が多くなると私語をする不心得者が出るものであり、中央列後方より4番目くらいに着席して私語をしている2人組の女子学生を確認しました。周囲が非常に静粛であるだけに目立ちました。そして、2人の名前を知るために、残り時間が少なくなったところで、本日の講義内容をまとめよ（私語をしても真面目に聴講していればまとめた内容を書けるかもしれませんので2人を試してみようと思いました）という趣旨の小テストを実施しました。2人の片方が2人分の小テストを提出した際に名前と内容を確認しましたが、案の定、お粗末な内容で、もし今後も現れた場合には注目してゆくつもりです。また、生協書籍部によれば、指定したテキストは売り切れで、50冊追加手配をしているということで、近年では最大の受講者数であり、本日、小テストを実施した時に数えてみたら180名が出席していました。次回は、受講生がテキストを持参しているという前提で講義をする予定で、自然人から法人に入っていくつもりです。」

**研究生モニターⅠ：**「授業お疲れ様でした。今日の授業は民法の意義からはじめ、人の行為能力まで進めて行かれました。先生は前のように具体例を挙げながらわかりやすく説明してくれました。ちょっと意外なことは講義中私語をしている人が多くて授業の雰囲気あまりよくありませんでした。確かに法律の勉強

は他の専門に比べるとそんなに面白くないですけど、先生の説明をしっかりと聞けば、これを理解できることもさほど難しくありません。来週の授業はこの面で改善したらいいと思います。今日の授業で先生が説明くれました人の行為能力の内容ですけど、また理解出来ない部分があります。自分でもうちょっと復習しながら勉強したいです。またよろしくお願いします。」

#### 第4回 5月6日

吉田・掲示板：「本日は4回目の講義で、テキストを必ず用意しておくことと初回より注意しておりましたので、テキストを最大限に利用して自然人の内容をまとめることが今回の目標でした。テキストを購入していない受講学生への嫌がらせという狙いもあります。まず、権利能力について言及し、始期・終期、停止条件・解除条件、同時死亡の推定、失踪宣告などの概念を説明してから、意思能力・行為能力に入りました。特に、制限能力者である未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人について時間をかけたつもりです。ただ、受講学生の雰囲気から判断して、上記4者の意義だけは何とか理解してもらったようには感じましたが、上記4者の行為能力の相違、逆に言い換えれば、どのような場合に法律行為を取り消せるのかの相違まで説明しても消化不良になってしまうと感じました。従って、最後の点に関しましては、7月にもし時間的余裕があれば再度言及してみようと思っています。その後、制限能力者の相手方の保護、詐術による取消権の排除、住所・居所などを説明し、残り時間が少なくなりそうでしたので、最後に、制限能力者制度についてまとめよという趣旨の小テストを実施しました。そして、先ほど、ざっと小テストをチェックしました所、昨年度の債権総論や債権各論を受講した学生の小テストは非常に優秀なものを含ませて、結構書けているのですが、初めて民法を受講した学生の小テストは現段階において、残念ながら、かなり落ちるような感じました。なお、本日・5月6日（金）は、ゴールデンウィークの谷間のために休講が多く、欠席者数も相当数に上るだろうと予測していたのですが、約170名が出席しており、この点に関しましては結構なことだと感心しておりますし、嬉しくも思っています。最後に、次回は法人について講義する予定です。」

研究生モニターⅠ：「今朝、雨が降ったせいか涼しくなりました。授業に良い天気だと思った私は気持ちをリセットして今日の講義に入りました。今日の講義は先週の内容もちょっと含まれていますが、前より詳しく説明していただきました。今回の講義で、この前、理解できなかった内容もほとんど分かるようになりました。今回、講義の内容は人の権利能力と行為能力でしたけど、後者の内容がやや理解しにくかったです。先生の教え方の中で、例示の方法以外に気に入った部分が少しありますが、法律用語の提示や、対立的な内容の対比、種々の状況によって成立し得る結果についての説明などです。これらは勉強する内容をもっと詳しく理解出来る良い方法だと思います。これからもこういう方法で説明していただきたいです。もうすぐ猛暑が来るかも知れませんが、気合いを入れて頑張りたいと思います。先生も良い授業が出来るためにお体を大切にしてください。」

#### 第5回 5月13日

吉田・掲示板：「本日講義しました民法総則の第5回講義（テーマは法人）について報告します。まず、法人には公益法人・営利法人・中間法人といった区別があり、民法の規定は公益法人を対象としたものであり、営利法人は主として商法が、中間法人は種々の特別法や中間法人法が規律しているものであるという前置きをしました。それから、営利法人の代表的な具体例である株式会社と、公益法人の1つである社団法人とを対比させ、株主と社員、株主総会と社員総会、代表取締役と理事などと対になるように説明して、馴染みの薄い公益法人でも取り付きやすくなるように工夫したつもりです。次に、法人の存在意義として、多数当事者の法律関係を単純化する技術であることと、財産関係を分別化するための技術であることとの2点を説明しました。その際、不動産登記や、組合と権利能力なき社団にも言及してしまいましたので、共

同所有の諸形態（共有・合有・総有）にも無理のない範囲で若干触れてみました。さらに、法人格否認の法理について、従業員の解雇や競業禁止義務潜脱などの具体的な例を挙げて説明する一方で、法人学説のような抽象的な内容には立ち入りませんでした。その後、テキストの記述順に従って、社団法人と財団法人、公益法人・営利法人・中間法人、法人の設立と登記などといった内容に関して整理しました。この中では、社団法人の設立に関してやや詳細に説明したつもりで、定款の必要的記載事項に留意するように話を進めたつもりです。以上の説明内容で残り時間が少なくなりましたので、法人の種類や特徴、相異点などを要領良くまとめ（講義の前半部分で説明した内容をまとめよ）という趣旨の小テストを実施しました。なお、今回は本日の続き（法人の残り）から権利の客体としての物について講義を進める予定です。」

**研究生モニターⅠ：**「今日の授業は自然人以外のもう一つの権利の主体、法人について教えていただきました。たぶん自然人と違って法人の内容は社会性が強いですから、理解するのが難しいとみんな思っていますが、実はそうではありません。今日の講義から見ると、ほとんどは良く耳にする内容でした。民法でよく言っている法人は公益法人のことですけど、これはまた社団法人と財団法人に分かれています。このほかに営利法人と中間法人とがありますけど、先生はいろいろな種類の法人の区別を対比してははっきり説明しました。複雑だと思った内容もすごくわかりやすくなりました。これからはこれらの内容を普通のニュースにでも合わせて分析したら良いことだと思います。今日、先生は授業の秩序に関するプリントを配りましたが、素直に言うとう勉強は自分のものですから、自らしっかりやらなければいけないと思います。最近少し涼しくなって今日も良い講義になりました」

#### 第6回 5月20日

**吉田・掲示板：**「本日講義しました第6回民法〔総則〕について報告します。民法の内容に入る前に、来週と再来週は学長選考のための学内意向投票があり、その投票管理委員を学部長から依頼され、両日とも午前8時30分～午後4時頃まで拘束されるために2週連続で休講せざるを得ないことを報告しました。さらに、不運なことに、その翌週は学生大会開催のため授業休止となっており、今回の講義は6月17日となり、休講に関しては7月下旬の予備日に補講をする予定であると宣言しました。従前より補講をする先生は少ないようで、7月26日か27日の午前に2コマ連続で補講をしても他の科目と重複する可能性は低いと思われますので、上記どちらかの日に実施するつもりです。前回は法人の途中で終わってしまいましたので、今回はその続きから権利の客体としての物を説明し、法律行為に少しだけ入りました。法人の残りに関しましては、理事や監事・社員総会などの機関、法人の権利能力に目的による制限が加えられていること、利益相反行為、権利能力なき社団などを駆け足で説明してとりえず終了ということにしました。次に、権利の客体としての物に関しましては、もうすぐ施行される新条文の説明から入りました。物の意義、動産と不動産、主物と従物、元物と果実などについて言及し、具体的に例を挙げて分かりやすく説明したつもりです。そして、法人を早く切り上げた関係で、少しだけですが、法律行為に入る時間的余裕ができ、民法の90条・91条・92条まで説明しました（約1月先の次回講義へのつなぎにしようと考えておりました）。最後に、民法87条（主物と従物）と88条（天然果実と法定果実）を分かりやすく説明せよという趣旨の小テストを実施しました。繰り返しになりますが、今回の講義は6月17日です。」

**研究生モニターⅠ：**「今日、授業の前に先生はいきなり次の三週間は休講だと知らせてくれました。原因ははっきり聞こえませんでしたけど、残りの内容が詳しく教えていただけないのが少し心配になりました。休講のせいか、今日の授業も流れが早かったです。残った法人の内容は一言で終わって、この後すぐ権利の客体に入りました。先生はいつものように民法条文の内容と共に教えていただきましたけど、ここの内容もポイントを挙げてすぐ終わりました。後の法律行為も同じ感じでした。

今日の内容はやむを得ず家で自習するしかないと思いましたけど、時間があったら、やはり先生の詳し



い授業を受けたいです。これから勉強の時間を少し増やすべきだという感じが自然に出来ました。先生が来週の仕事で順調に出来るように祈ります。」

#### 第7回 6月10日

吉田・掲示板：「先ほど講義しました第7回民法〔総則〕について報告します。前回の講義の最後に簡単に言及しました法律行為について、今回はもっと詳しく説明する予定で講義に臨みました。イントロとして、法律行為に3類型の中で契約が最も重要であり、意思表示が法律行為の要素であり、意思によらない義務に関連して事実的契約関係という考え方があり、法律行為の解釈や例文解釈、法律行為自由の原則（契約自由の原則）などの重要な概念にも留意してほしい旨、簡潔に言及しました。そして、法律行為の有効要件に関する民法90条や民法91条について、テキストを十分に利用しながら少し時間をかけて説明しました。民法90条の公序良俗違反に関しては、具体的にどのような契約が無効とされるのか例を挙げて説明しました。たとえば犯罪に関する契約・人倫に反する契約・身体的自由を制限する契約・暴行行為などについて言及しました。その際、公序良俗違反と民法708条の不法原因給付との関連についても例を挙げて説明しました。民法91条の強行法規違反や契約内容の実現可能性（原始的不能や後発的不能にも言及）等については残り時間の関係上、やや軽めに説明しました。最後に、公序良俗違反についてまとめよという趣旨の小テストを実施しました。次回は、意思表示について講義する予定です。」

研究生モニターⅠ：「今日の授業は法律行為について教えていただきました。法律行為は成立の態様により3種に分かれていますが、今日はその中の契約について最も詳しく説明していただきました。先生は、法律行為の解釈、契約自由の原則、法律行為の有効と無効等の関連性ある内容を少しずつ関連づけて進めました。中には具体的な法律行為の内容もありますけれども、これについても分かりやすく説明していただきました。特に、ゼミで聞いた内容も少々含まれていますので、良い復習になると思います。次の契約の意思表示に関する内容も楽しみにしています。前回の授業で、本日は学生大会だと予測されて、今回は授業休止だろうと言われましたが、24日に変更のため、みんな来られないのではと思いましたが、今日の出席は予想よりも良かったです。最近だんだん暑くなってきました。大変ですけど、学生も先生も一緒に頑張ってほしいです。残った授業もよろしくお願いします。」

#### 第8回 6月17日

吉田・掲示板：「今日の朝一に講義しました第8回民法〔総則〕について報告します。前回は法律行為の内容面からの制約でしたが、今回は法律行為生成過程の面からの制約、すなわち、意思表示の欠缺の場合の無効と、瑕疵ある意思表示の場合の取消についてを理解させることが狙いでした。意思表示の欠缺というのは心裡留保・通謀虚偽表示・錯誤のことで、瑕疵ある意思表示とは詐欺や強迫による意思表示のことで、意思表示の欠缺の場合の効果は当該法律行為が無効ということであり、瑕疵ある意思表示の場合の効果は当該法律行為を取り消すことができる（無効と取消については、次回、詳細に説明する予定です）ということです。最初に、詐欺・強迫・心裡留保・通謀虚偽表示・錯誤の順で黒板に図表を示して具体的に例を挙げて可能な限り分かりやすく説明したつもりです。次に、再度、条文の順序に従って、民法の文言と照合せながら、93条心裡留保・94条通謀虚偽表示・95条錯誤・96条詐欺と強迫というように、逐条的に（若干抽象的にはなりますが）解説しました。そして、整理の意味で、テキストの重要な部分だけを指摘したのですが、意思表示の欠缺までで残り時間が少なくなっておりましたので、テキストの瑕疵ある意思表示の重要な部分の指摘は次回に回して小テストということにしました。小テストは民法96条3項（強迫による取消は第三者に対抗することができるが、詐欺による取消は善意の第三者に対抗することができない）について分かりやすく説明せよという趣旨で実施し、次回は今回の残りから無効と取消など（場合によっては代理に）に入る予定です。」



**研究生モニター I:**「今日の授業は意思表示についての内容でした。中でも、強迫、詐欺、心裡留保、虚偽表示、錯誤等の内容を具体的に説明していただきました。以前に、ゼミで勉強した契約の内容も多少含まれていますので、また良い復習になりました。今日の講義は法律条文の内容とともに進められましたが、強迫、詐欺で第三者に対しての対抗を説明する時に使った図表による教え方がとても理解しやすいです。以前からもずっと使われていましたが、確かに良い方法だと思います。また、上の内容に関して無効と取消の場合も例を挙げて詳しく説明していただきました。今日は小テスト前まで遅刻する学生がいました。もう授業が終わる直前なのに来るなんて意味がわかりません。これからも学生自らが受講態度をもっとあげてほしいです。先生今日もお疲れ様でした。」

#### 第9回 6月24日

**吉田・掲示板:**「先ほど講義しました民法〔総則〕第9回講義について報告します。補講を除く正規の残り講義回数が今回を含め5回となりましたので、今回は意思表示に関する最後とし、10回と11回で代理（特に表見代理と無権代理に重点を置く）を説明し、12回と13回で時効を終わらせるという計画をもって講義に臨みました。今回は、意思表示の補足と意思表示の効力発生時期（公示送達も含めて）、無効と取消、条件と期限などを取り上げました。まず、前回に引き続いて意思表示の欠缺と瑕疵ある意思表示を整理し、特に詐欺と強迫についてテキストの該当箇所を指摘しながらまとめました。次に、民法の97条と98条とを逐条解説して意思表示の効力発生時期と公示送達について整理しました。そして、無効と取消に関しては前々回より何度も言及しておりましたので無効行為の転換について具体的に例を挙げて説明するに留めました。最後に、停止条件と解除条件、始期と終期などを簡潔に説明しましたが、期限の利益とその放棄について説明する時間がなくなりましたので、意思表示の効力発生時期についてまとめよという趣旨の小テストを実施して、終了としました。次回は、期限の利益とその放棄から代理に入る予定です。」

**研究生モニター I:**「今日は先週の続き、意思表示について教えていただきました。先週と重複している内容が多かったので、より簡単に理解できました。テキストには今日勉強した内容に関する民法の条文がはっきり書かれていますので、家に帰ってもう一度条文とともに復習するつもりです。夏休み前に残された講義期間もわずか一か月ぐらいです。先生の説明によると、民法総則の内容では法律行為が一番重要で、その中でも意思表示の内容がもっとも重要です。先生が教えた内容を繰り返して考えながら、この部分の内容をもっとしっかり理解しなくてはいけないと思い始めました。もちろん他のゼミで勉強した内容も良く復習すべきと思います。もうすぐ夏休みですが、大学院生になるために早く研究計画書の作成を進めたいです。たぶんそのことで先生に少し迷惑をかけるかも知れませんが、是非ともよろしくお願いします。」

#### 第10回 7月1日

**吉田・掲示板:**「本日の午前に講義しました民法〔総則〕第10回講義について報告します。まず、前回やり残した期限の利益と期限の利益喪失約款について具体的に例を挙げて説明しました。次に、残り時間の関係から本日と次回とで済まさないといけない代理の説明に入りました。その冒頭で、重要な事項は非常に多いけれども、特に重要なのは無権代理と表見代理である旨を言明しました。そして、代理の意義、任意代理と法定代理、類似した制度としての使者、委任と代理権授与行為・委任状、顕名主義などを説明して、相当の時間がかかってしまい、自己契約・双方代理の禁止は次回にまわすことにして、無権代理と表見代理について概観しました。特に表見代理に関する109条・110条・112条は、逐条的解説を施しました（次回も再度言及するつもりではありますが）。最後に、表見代理についてまとめよという趣旨（今回だけで表見代理を理解させる意図ではなく、次回も十分に時間をかけて説明するつもりであり、明確な問題意識を持ってもらうため、意識的に、このような問題にしました）の小テストをして終わりにしました。次回は、再度、表見代理と無権代理について説明し、無権代理と相続にも言及し、今回説明する予定であっ

た自己契約・双方代理の禁止も済ませる予定をしています。」

**研究生モニター I:**「今日の講義は前回時間切れとなった期限の利益の内容を最初に説明して、その後、代理の内容に入りました。この部分の内容ははじめて勉強したものではありませんので、今日はゼミの時、分からなかった内容をポイントとしてちゃんと教えていただきました。また一回よい復習となりました。来週の講義も代理についての内容ですので、やはりこの方法で授業を受けようと思います。ここ数日間の暑い天気のために、体の調子が悪くなりました。少々勉強に影響があるかもしれませんが、残った数回の授業も最後まで頑張ろうと思います。」

#### 第11回 7月8日

**吉田・掲示板:**「本日の午前に講義しました民法〔総則〕第11回講義について報告します。最初に学生による授業評価アンケートの用紙を配布しました。あくまで授業改善の参考にするための実施であり、記入ならびに提出は自由で、もし提出する場合は教務係前にある提出ボックスに入れてほしい旨説明しました。昨年前期までは教室で講義担当教員が回収しても構わないということになっておりましたが、昨年後期より担当教員は回収に関与しないでおこうということになりました。今回のテーマは前回に引き続いて代理で、これを終了させることが狙いでした。まず、前回説明できませんでした復代理人、自己契約・双方代理の禁止、利益相反行為の禁止、共同代理などに言及しました。そして、無権代理と表見代理に言及し、狭義の無権代理をやや詳細に説明したつもりです。重要な概念として、本人の追認権・追認拒絶権や、相手方の催告権・取消権、無権代理人の責任などを指摘し、無権代理行為の効力について具体的に例を挙げ、黒板に図表を示して説明しました。特に、無権代理と相続の問題が重要とおっていましたので、①本人を無権代理人が相続する場合（さらに単独相続の場合と共同相続の場合とを分ける）と、②無権代理人を本人が相続する場合とに分けて具体的に説明しました。前回言及しました表見代理についても、再度説明するつもりでしたが、残り時間の関係より次回以降に言及することにして、無権代理と相続について具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよという趣旨の小テストを実施して終わりということにしました。次回は、表見代理と期間に言及してから、時効に入る予定です。」

**研究生モニター I:**「今日の講義は前回の説明で残った代理の内容について教えていただきました。復代理人、自己契約と双方代理、利益相反行為、共同代理などの内容について先生は図表を書いて具体的に説明しましたが、少し多かったので全部理解できませんでした。家に帰って、もう一度ちゃんと見て復習するつもりです。今日の代理の内容に相続の内容も入って、多面的な勉強になったと思います。今後いろんな民法の内容を結合させて勉強したいです。研究生として大学に入ってもうすぐ半年です。半年の勉強を通して日本語の勉強がまだまだと深く感じました。残った半年も研究計画書の準備と共に言葉の勉強も頑張ろうと思います。昨日ニュースで、ロンドンのテロ事件についての報道を見ましたが、世の中に法律で解決しにくい事件もまだまだあるなと考えました。」

#### 第12回 7月15日

**吉田・掲示板:**「先ほど講義しました民法〔総則〕第12回講義について報告します。7月27日に実施する予定の補講を除き、今回を含めて残り講義回数は2回ですので、本日は是が非でも時効のあらましまでは進む予定で講義に臨みました。まず、前回の続きとして、民法109条・110条・112条が規定する表見代理について、テキストの要点を指示しながら、出来るだけ分かりやすく説明したつもりです。次に、期間について、とりわけ、初日不参入の原則とその例外に留意して説明しました。具体的には株主総会の招集通知の問題や、4月1日生まれはいわゆる早生まれになるという年齢の計算の問題、クーリングオフの期間などに言及しました。そして、時効のあらましについて解説しました。取得時効に関する162条、後期の物権で詳述する予定の192条善意取得（即時取得）、債権の消滅時効は10年であること（商事債権は5年）、

時効中断と裁判上の請求ならびに催告（裁判外の請求）などを説明して、残り時間が少なくなっておりますので、本日の講義内容をまとめよという趣旨の小テストを実施して終了としました。次回は、補講を別とすると最終講義であり、時効を終了させ、これまでの講義で説明が不十分であった重要箇所について再度講義する予定です。」

**研究生モニター I:**「今日の授業の最初は無権代理と表見代理の区別を簡単に説明していただきました。続いて入った内容はちょうど前回のゼミで教えていただいた期間と時効の内容でした。期間の計算方法はそんなに難しくありませんが、時効の内容は前回のゼミからちょっと理解できなかった部分が多かったので、今回はちゃんと聞きました。残った時効の内容は来週の講義で説明されるので、その前に一度復習するつもりです。蝉が鳴き始めたので、少々真夏の感じがしました。夏休みは勉強の合間に、どこかへ旅行したいです。日本をもっと知ることが出来る上にストレスの解消にもなります。その後は効率良く勉強することができると思います。毎日、心をリセットすることが健康な体につながると私は思います。これから猛暑かもしれませんので、先生お体に気をつけてください。」

### 第13回 7月22日

**吉田・掲示板:**「先ほど講義しました民法〔総則〕第13回講義について報告します。7月27日（水）の午前9時半からE-302教室で実施する予定の補講を除き、今回が民法総則の最終講義ですので、時効を終了させ、本来ならば第1回に講義すべき民法の基本原則や私権行使の原則も説明することが今回の狙いでした。最初に前回の続きということで、取得時効と消滅時効の基本的な仕組みについて図表を用いて説明しました。そして、消滅時効に類似した制度としての除斥期間、時効制度に関する3つの存在理由、時効の援用、時効の中断、時効の停止などを言及しました。とりわけ、請求（裁判上の請求）と催告（裁判外の請求）に関しては、今回の小テストのテーマとしようと考えておりましたので他よりも詳細に言及しました。そして、取得時効と消滅時効の個別的な内容に入り、テキストにざっと目を通させ、一応は最後まで終了させたという気にさせたいつもりです。ただ、上述しましたように、民法の基本原則や私権行使の原則につきましても、ある程度、民法を勉強してから触れる方がよいという考えを持っておりますので、開講時には説明せず最後に説明すると明言しておりましたので、今回、簡潔ながら説明しました。以上で、残り時間が少なくなっておりますが、裁判上の請求と裁判外の請求に関して具体的に分かりやすく説明せよという趣旨の小テストを実施して、民法総則の正規の講義は最後ということにしました。7月27日の補講は金曜ではなく、水曜の実施ですので、出席は自由で、小テストも出席調査もしないと言明しました。なお、講義内容は建前上、過去13回の講義で軽く言及したに過ぎない重要な事項を補足するというのですが、定期試験2日前のことでもありますので、出席してくれた受講生にとって有益になるように配慮したいと考えています。」

**研究生モニター I:**「来週、水曜日の補講が民法総則のラスト講義になりました。7月29日の定期試験は受けませんが、今までに勉強した民法総則の内容をもう一度最初からちゃんと復習するつもりです。今日の講義は残った時効の内容を一気に最後まで教えていただきました。先生は図表を書きながら、講義内容のポイントを押さえて理解しやすく説明しました。授業の流れは少し早かったですが、割に今回の説明していただいた内容はそんなに難しくありませんでした。その後、定期試験の内容についても少し説明しましたが、良い成績が取れるか否かはやはり普段の努力次第だと思います。いよいよ終わりですが、この学期の総則の講義に関しては、普段からノートをちゃんと取って、分からなかった内容は家で復習しました。講義後に感想を書くことも日本語の勉強にとっても役に立ちました、後期の物権の講義もそのように受講しようと思います。先生、この半年お疲れ様でした。」

## 第4章 2006年度の学生参加型授業参観プロジェクト

(初出：平成18年度和歌山大学UD(FD)報告書)

### 第1回 2006年10月2日

吉田・掲示板：「昨夜講義しました民法〔総則〕第1回講義について報告します。開始時刻である19時10分の少し前、E-302教室に入りましたが、ほぼ満杯の状態で、今回は教室変更をする必要があるかもしれません。受講登録前ですので増えるか減るか皆目見当がつきませんが、夜間主コースの講義では、これまでの民法の中では最も受講者数が多くなるように感じました。最初に、シラバスの338頁を見てもらい、授業概要や授業計画などを説明しました。その中で民法の専門用語を取り上げ、日常用語とはかなり異なるものがあることや、簡単には理解できないものがあることを指摘し、受講登録して5・6回目の講義で放棄するよりも初めから受けない方がよいと言明しました。また、テキストと六法は必ず用意してほしいこと、先輩のお古はあまり役に立たないこと、次回より毎回小テストを実施することなどを注意しました。最後に、これまでの民法総則の定期試験でどんな問題を出題したかを説明し、受講登録前にも拘わらず出席してくれた人への御礼代わりとしました。今回は10月16日で、民法の概要を説明する予定です。」

### 第2回 10月16日

吉田・掲示板：「昨夜講義しました民法〔総則〕第2回講義について報告します。開始少し前にE-302教室を見ましたところ、前回以上に息苦しそうでしたので、経済学部講義棟の中で一番大きなE-101教室に変更しました。今回のテーマは民法の概観をすることでしたが、法学概論的なことを基本常識として知っておいてほしかったので、前置きの説明をしました。まず、民事と刑事の違いから話し、泥棒や高金利の制限をその具体例として取り上げました。専門用語としての特定物と種類物に言及し、特定物を盗まれた場合はともかく、種類物(とりわけ金銭)を盗まれた場合、警察の民事不介入の原則のために、盗難された金銭は民事裁判で返還請求する必要があることを説明しました。高金利の制限に関しては、民事上は利息制限法が、刑事上は出資法が主たる役割を果たしており、民事的に無効な利息でも刑事制裁が科せられない範囲があるということに言及しました。さらに、上の説明に関連して、裁判・審判・調停、最高裁・高裁・地裁・家裁・簡裁、控訴・上告、三審制、憲法・法律・規則・命令・条例・慣習・条理などといった裁判制度や法体系の基本的内容にも言及しました。そして民法の5つの編を取り上げ、親族・相続の重要な概念、たとえば遺産分割や遺言、遺留分などを簡潔に説明しました。それから、総則・物権・債権という財産法に入ったのですが、民法が規定する10個の物権を説明している途中で残り時間が非常に少なくなっていましたので、担保物権から債権は後日触れることにして、本日の講義内容をまとめよという趣旨の小テストを実施しました。今回は、テキストが品切れになっている可能性がありますので、テキスト無しでも何とかできるように六法だけを見てもらって民法総則の概観を講義する予定です。」

学生モニターJ：「初めて講義を受けさせていただいた感想ですが、最初に先生が仰っていた通り、具体的な例を交え、わかり易く説明していただき、工学系の出身で法律系の知識は無い私も十分に理解できたように思います。特に、刑事・民事・警察の民事不介入の部分で、消費者金融の金利を例として示していただいたのは非常にわかり易く、また、恥ずかしながら正確に理解していなかった時事問題の理解が深まり、大変有難かったです。全ての法律用語について暗記する自信はありませんが、具体的なケースについて法律的にどういう規定になっているのかを理解しておく事は、必ず今後の生活や仕事で役立つと思うので、そういった部分を正確に理解し、記憶する事を目標に受講しようと思っています。」

学生モニターK：「民法というものを始めて学びました。民事・刑事・民事不介入と言う言葉は日常生活



の中で、耳にする言葉ではありますが、その境界が何であるのか？ということについて、深く考えることも、過去にはありませんでした。また、財産法等の言葉も恥ずかしながら、初めて聞く言葉も多く、遺留分という言葉も耳にしたことはありますが、その言葉の意味、使われ方等については、深く知る機会もありませんでした。吉田先生の講義内容では、日常生活に密着あるいは、関係の深い事柄をおりまぜながらの内容ですので、非常に興味深く、勉強することができます。今後も、日常生活に関係の深い内容をおりまぜて頂けると、私のような知識不足の者も、大変わかりやすく助かります。今後の講義において、今までの生活や勉強からは学ぶことの出来なかった内容を知ることが出来る、ということをお大変うれしく思います。」

### 第3回 10月23日

吉田・掲示板：「昨夜講義しました民法〔総則〕第3回講義について報告します。前回、民法の概観をして担保物権の途中で終わりましたので、その続きから入りました。まず、10個の物権を整理して、債権との相違に言及し、権利の主体や権利の客体の話から民法総則へと入り、テキストの導入部分に触れました。時間の関係上、『民法を学ぶにあたって』という内容は省略し、いわゆる民法総論（導入）的内容として、民法の基本原理は1月の最終講義で時間があれば言及することとしました（1月30日は火曜日ですが、月曜日の代替日とされており、この日が最終講義日となる予定です）。そして、私権行使の原則の一つである権利濫用の禁止だけを取り上げ、具体例として宇奈月温泉事件を現代風にアレンジして説明しました。その後で、権利の主体に入り、自然人と法人に言及しました。なお、法人に関しては株式会社や有限会社などが非常に重要ですが、民法では社団法人と財団法人を中心に講義することとなっており、最も重要な株式会社は商法の講義で学習してほしいと言いました。今回は権利能力とその始期及び終期、同時死亡の推定、失踪宣告までの説明で時間が残り少なくなりましたので、最後に本日の講義内容をまとめよという小テストをして終わりました。次回は、行為能力、とりわけ制限能力者について講義する予定です。」

学生モニターJ：「本日の講義では、自然人の権利能力の例でお話していただいた相続問題に驚きがありました。本日の講義の焦点からずれてしまうのですが、子が居ない夫婦のどちらかが亡くなった場合、残った配偶者が全ての財産を相続すると思っていたのです。実際のところは子が居ない場合、配偶者が居るにもかかわらず、親が登場するというのが意外でした。自分が、おそらく常識の範疇に入るであろう基本的な事実を知らない事を思い知りました。今は資格試験のための勉強をメインにしなければならないので手が回りませんが、時間ができた時に、民法以外にも、きちんと法律について学んでみたいと思います。」

学生モニターK：「初回の講義とは異なり、突っ込んだ内容が多いように思いました、知識不足の私からすればですが…。権利能力については、非常に勉強になりました。結婚し、子供がいる身です。身近な人が、事故や病気で亡くなったという話も珍しくない年齢や状況の中で、自分がその立場になったら、残された家族がどうなるであろうか？ということ考えたことがあります。相続争いに巻き込まれるようなことはないと思いますが、妻にも今日の講義内容を話し、素人同士の意見を交わしてみたいと思いました。私個人の意見ではありますが、世の中にある法律に関する用語というものは、表現方法が難解で、わかりにくい内容が多いように思います。しかし、先生のお話や、講義で使用しているテキストに目を通すと、今までとつぎにくかった内容が、必ずしもそうでなく、非常に身近に感じます。権利能力にしろ、遺産相続にしろ、民法というものの日常生活への影響を意識しながら、テキストを読み進めるだけで、非常に理解しやすいものであると、改めて感じました。次回の講義までに、本日の内容をテキストでしっかり把握したいと思います。」

### 第4回 10月30日

吉田・掲示板：「昨夜講義しました民法〔総則〕第4回講義について報告します。本日の狙いは行為能力、



とりわけ制限行為能力者を理解してもらうことでした。最初に、前回からの流れを踏まえて、権利能力・意思能力・行為能力（他にも責任能力や遺言能力という概念も重要ですが）などを、民法総則では記憶しておいて欲しいと言いました。次に、制限行為能力者として未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人の概念があり、従前の禁治産者・準禁治産者といった行為無能力者の制度に代わるものであることを説明しました。そして、前記4つの概念に関して、意義・法定代理人・行為能力（逆に言えば如何なる範囲で取消することができるのか）などを詳細に説明しました。さらに、制限能力者の相手方の保護として、催告権が与えられていること、詐術による取消権の排除などにも軽く言及しました。以上で残り時間が少なくなりましたので、本日の講義内容をまとめよという小テストをしました。次回は法人を中心に講義する予定です。」

**学生モニター J:**「今回の講義では制限行為能力者について説明していただきました。成年被後見人・被保佐人・被補助人と言う言葉については、自宅に認知症の祖母が居る事もあり、ある程度馴染んでいたのですが、禁治産者・準禁治産者と言った言葉については全く馴染みの無い言葉でした。差別用語云々が厳しく言われるようになって久しいにもかかわらず、これらの言葉が平成になってから改正されたとの事でしたので、法改正の対応の遅さが現れているなと感じました。前回の講義で紹介していただいたグレーゾーン金利の問題でも感じた事ですが、何か大きな問題でも起こらない限りなかなか改善されないのはどこでも同じなんだなと思いました。」

**学生モニター K:**「2006/10/30の講義を終えて。今回は、行為能力、制限行為能力者についての内容でした。今回も、ではありますが、意思能力や行為能力という言葉をはじめて耳にしました。意思決定能力の有無や、その立証の困難なこと、について学びました。また、未成年ということでは、過去の自身の経験と照らし合わせてみると、大学生時代にワンルームの賃貸契約をする際、契約時には保護者の方の付き添いをお願いします、と言われたことを思い出しました。当たり前のことではありますが、民法ということを念頭において考えると、日常生活の中には、たくさんの民法が自分の生活にかかわっているということを、改めて実感しました。世の中一般的には（民法の知識がなくても）、未成年であるか、成年であるか、というのがひとつの境界線として扱われます。しかし、既婚者であれば未成年者であっても、成年として扱われるというのは、初めて知りました。また、制限行為能力者の能力範囲についても、勉強になることばかりでした。後見人については、ある程度の前知識はありましたが、保佐人（補助人）については知識はなく、その法律行為や、取消しの範囲についても、詳細に区別されていることも知りました。次回は、法人についてとのことですので、少し予習をしてのぞみ、より多くのことを学びたいと思います。」

## 第5回 11月6日

**吉田・掲示板:**「昨夜講義しました民法〔総則〕第5回講義について報告します。今回の狙いは法人についてできるだけ多く民法上の基本的概念を講義することでした。最初に法人で取り上げるべきは公益目的の社団法人と財団法人ですが、営利目的の株式会社との対比において、組織や構造などを理解すべきことに言及しました。そして、法人の存在意義として、多数当事者の法律関係単純化の技術と財産関係分別の技術の2つがあると述べました。さらに、法人に類似の制度として組合や権利能力なき社団などがあり、その話の続きで本来は物権や債権総論で取り上げる内容ですが、共有・合有・総有という共同所有の3類型に言及しました。それから、法人格否認の法理を取り上げ、従業員の不当解雇や競業避止義務の潜脱などの具体例を説明しました。ほかに、法人の分類としての社団法人・財団法人や公益法人・営利法人・中間法人、法人の設立として定款や寄附行為の作成・主務官庁の許可・設立登記、法人の機関としての理事・監事・社員総会などに言及しました。以上で残り時間が少なくなりましたので、本日の講義内容をまとめよという小テストを実施しました。次回は法人の残り権利の客体としての物を講義する予定です。なお、

11月13日は大学祭の関係で授業休止で、次の講義は11月20日です。また、学年暦に従えば1月29日が講義のできる最後の月曜日ですが、翌日の火曜日が月曜の代替日となっていますので、1月30日（火）が最終講義日です。」

**学生モニターJ**：「今回の講義では法人について講義していただきました。多数当事者の法律関係単純化の技術、財産関係分別の技術、法人格否認の法理についてはなるほどと納得できました。また、各種法人の特徴として財団法人の目的を変える事ができないと言う部分を聞いて、産業雇用安定センターと言う財団法人の存在を思い出しました。厚生労働省職業安定局（ハローワーク）というものがあるため、必要とは思えない財団法人が存在している事に非常に違和感があり、天下りの受け皿になっているに違いないと思っていたのですが、財団法人の特徴を知り、役目を終えた法人が目的を変えられずに存在し続ける仕組みになっている事が問題なのではないかと考えさせられました。」

**学生モニターK**：「今回は、民法上での法人について、その意義や種類についての内容でした。公益目的としての、社団法人と財団法人について、営利目的の株式会社との組織の違いについて、また、法人の意義として、多数当事者の法律関係単純化の技術や、財産関係分別の技術、法人格否認の法理、についての内容でした。また、法人の種類として先にあげた、社団法人、財団法人のほかの、公益法人、営利法人、中間法人、についてでした。テキストを読み進めるにあたって、疑問点が出てきました。64頁の『税制上の優遇措置を認めるべき公益とは何か』ということについて、今後検討が必要、と記載があります。公益を目的とするのが、民法上の法人であるが、税制上という観点からは、公益と私益の区別がつきにくく、優遇措置のボーダーラインを決めるのが容易ではないので、今後の検討が必要、ということでしょうか？ お教えいただければ、うれしいです。」

## 第6回 11月20日

**吉田・掲示板**：「2時間ほど前に講義しました民法〔総則〕第6回講義について報告します。今回は法人の残りを済ませ、できれば物も終了させたかったのですが、法人までで手一杯でした。前回の続きとして、法人の対外的法律関係から入りました。まず、法人の権利能力に関して、①法令による制限、②性質による制限、③目的による制限（これが重要です）という3つの制限があり、営利法人に関しては目的の範囲内か否かによる制限はほとんど無くなっているのに対して、非営利法人に関しては目的の範囲内か否かによる制限は明確に存在し、その具体例として労働金庫貸付事件を取り上げて詳細に説明しました。そして、法人の政治献金や理事の代表権に対する制限（特に利益相反行為に注意）、法人の消滅などに軽く言及し、権利能力のない社団に入りました。権利能力のない社団に関しては、その意義、財産関係（共有や合有とは異なる総有）、不動産登記の方法（通常は代表者の個人名義で登記されています）などが重要で、これらの説明で残り時間が少なくなり、権利の客体としての物に入るのは次回として、本日の講義内容をまとめよという小テストを実施して終了としました。」

**学生モニターJ**：「今回の講義では前回に引き続き、法人について講義していただきました。営利法人に比べ、非営利法人は目的の範囲について特に大きく制限されている事がわかりました。労働金庫貸付事件では、この制限を利用して利益を得ようとした者が居た事に驚きました。また、法人の政治献金については目的の範囲内であれば認められているとの事ですが、企業の政治献金と言うと、どうしても政治家と一部の業者の利益のために利用されているような印象が先ずあります。こういった部分が何度も問題になっているにもかかわらずいつまでも制限されないのは、やはり政治家が自己の利益を守りたいから改正しようとしませんか？ 常々思っている事です。政治家を律する法を政治家が作るという構造自体、どうにかできないものかと思います。」

**学生モニターK**：「今回は、法人の権利能力（法令、性質、目的による制限）、政治献金や、理事代表権（利

益相反), 定款, 寄付行為, 権利能力なき社団, についての内容でした。法人の権利能力については, 目的による制限において, 労働金庫貸付事件を具体例に挙げての内容でした。非営利法人においては, 「目的の範囲」による制限が明確になっているとのことでした。労働金庫貸付事件において, 疑問点があります。テキストには, 目的の範囲内説と, 目的の範囲外説の両方について, 記載があり, 範囲内説においては, 協同組合の利益が害される, と記載されています。そもそもこの説は, 法律で禁止されている員外貸付を容認しようとする説であると思います。範囲内説は, 法人利益確保のための説(拡大解釈?)であると思うのですが, 法律関係を混乱させるような説を主張するのは, 公益を求める法人としては適切でないと思うのですが, これはかなり偏った(単純すぎる)考え方なのでしょうか?」

## 第7回 11月27日

吉田・掲示板:「昨夜の民法[総則]第7回講義について報告します。今回の狙いは, 権利の客体としての物を前半で終了させ, 後半は民法総則で最も躓きやすい法律行為に入ることでした。最初に, 前回までは権利の主体としての(自然人と法人)について講義し, 今回は権利の客体としての物を講義し, 今回の途中から次回以降は権利の変動について講義してゆくことになるという講義全体の流れについて言及しました。次に, 物に関する民法85~89条を逐条的に解説し, テキストを眺めてもらいながら, 物の意義, 不動産と動産, 主物と従物, 元物と果実(天然果実と法定果実)などの重要な基本的概念を具体的に例を挙げながら説明しました。以上で, 権利の客体としての物は済ませたということにして法律行為に入りました。条文としては90~92条を少し詳細に見てもらいました。その際, 法律行為は非常に難解な専門用語で, 契約・単独行為・合同行為を包含する概念ですが, 初学者が勉強する際は契約と読み替えるのが分かりやすいと述べました。そして, テキストに目を通しながら, 法律行為の意義, 法律行為の解釈(補充や修正), 法律行為自由の原則(契約自由の原則を先に説明), 公序良俗違反などに言及しました。これらの箇所は民法の勉強を放棄してしまうヤマ場でもありますので, 少し理解しにくくても諦めないで欲しいとも申し添えました。公序良俗違反に関する説明で時間が残り少なくなりましたので, 続きは次回にということにし, 今回の講義内容をまとめよという小テストを実施して終了としました。次回は今回の続きから意思表示の欠缺や瑕疵ある意思表示を講義する予定です。」

学生モニターJ:「今回の講義では, 法律行為について講義していただきました。不動産・動産, 主物・従物等は通常の言葉の意味と法律上の意味はほぼ一致しているようですが, 「果実」の意味については通常とは異なる意味で用いられているようでした。例えば「産生物」等, 他に日本語として適切な意味を成す言葉で表現できそうなものですが, あえて「果実」と言う勘違いしそうな言葉を用いるところが一般人による条文解読を難しくしている理由の一つではないかと感じました。法律行為については仰られる通り, 契約と読み替える事で, 比較的違和感無く理解する事ができたように思います。」

学生モニターK:講義前に体調不良のため欠席する旨の電話連絡をもらっていたが, 掲示板を見て, 次のようなメールを送信してくれた。「昨日は, 突然の体調不良により, 講義を欠席してしまい, 申し訳ありませんでした。未だ体調がすぐれず, 本日も仕事を休んでおります。さて, 昨日は, 法律行為についての内容とのことでした。前々から, 民法の山場は法律行為である, とのことを伺っておりましたので, その初回の内容を聞き逃してしまったのは, 非常に残念です。法律行為の種類として, 最も一般的なのは, 2人の人間の意思の合致で, 法律行為の解釈として, 補充と修正があり, 補充には, 主観的事情として, 当事者が何を意図したかを確定していくこと, 客観的事情として, 当事者の意図を明確に出来ない場合, 同じようなことが起きた場合, どう解釈するか考える必要がある。また, 法律行為自由の原則として, 法律関係は, 当事者が自由に形成できる, との内容をテキストから読みました。次回は出席できるよう, 体調を整えたいと思います。」

## 第8回 12月4日

吉田・掲示板：「昨夜の民法〔総則〕第8回講義について報告します。本日の狙いは、残り授業回数を考慮して、前回の続きである法律行為の序論部分を済ませ、意思表示に入り、重要な概念については全て説明を終了させてしまうことでした。最初に前回とも重複しますが、法律行為自由の原則に対する制約である公序良俗と強行法規（規定）について言及し、特に公序良俗違反と不法原因給付（民法708条）の関連を具体的に例を挙げて説明しました。そして、大雑把に言って、債権法は任意法規（規定）がほとんどで、物権法は強行法規がほとんどであると説明しました。さらに、法律行為の内容は実現可能でなければならないことに言及して、法律行為の序論部分は終了としました。次に、意思表示に関する部分、とりわけ意思と表示の不一致について言及しました。すなわち、意思主義と表示主義との対立を指摘し、いわゆる意思表示の欠缺と瑕疵ある意思表示について説明しました。第一に、93条の心裡留保で、誤解を恐れずに一言で言ってしまうえば、冗談での取引は無効であるということです。第二は、94条の（通謀）虚偽表示で、法律行為の相手方との間で虚偽の取引をした場合は無効であり、ただし、善意の第三者にはその無効を主張することができないということです。第三は、95条の錯誤で、取引における重要な部分で思い違いがあれば無効であるということです。以上がいわゆる意思表示の欠缺で、次の二つは瑕疵ある意思表示です。すなわち96条で規定されている詐欺と脅迫で、両者とも取り消しすることができるが、詐欺は善意の第三者に対抗することができないというものです。これらの説明で残り時間がほとんど無くなりましたので、本日の講義内容をまとめよという小テストを実施して、終了としました。次回は、意思表示に関する若干の補足説明をして代理に入る予定です。」

学生モニターJ：「今回の講義では、法律行為及び意思表示について講義していただきました。意思表示については、普段の生活に密接に関係のある内容で、たいへん興味深く聞く事ができました。無効・取消の条件として、心裡留保・虚偽表示・錯誤については、善意の第三者に対する権利についても一貫しており、違和感無く理解する事ができたのですが、詐欺と脅迫の善意の第三者に対する対抗の可否が異なる理由がよくわかりませんでした。また、善意の第三者に対抗できる場合は善意の第三者が、対抗できない場合は当事者が被害に遭う事になると思うのですが、この被害を回復する手段については明文化されていないように見え、不公平な法律であるように思われました。」

学生モニターK：「今回は、公序良俗違反と、不法原因給付、強行法規（規定）、任意法規（規定）についてでした。公序良俗違反と不法原因給付については、売春等の具体例を用いての説明でした。次に、意思表示について、意思と表示の不一致についてで、心裡留保に関しては、土地売買における具体例に触れての内容でした。不一致については、心裡留保と詐欺、錯誤の違いについて触れ、94条、虚偽表示については、善意の第三者には無効を主張出来ない、という内容でした。96条、詐欺と脅迫では、詐欺は善意の第三者に対抗できないというものでした。」

## 第9回 12月11日

吉田・掲示板：「昨夜の民法〔総則〕第9回講義について報告します。今回の狙いは代理についての基本的知識を身につけてもらうことでした。年内の講義は次回が最後で狭義の無権代理と表見代理について講義するつもりですので、今回はその他の内容について確実に言及しようと考えていました。最初に前回のやり残しとして、民法98条・公示による意思表示について言及しました。そして、無効と取消については後日講義すると宣言して代理に入り、法定代理と任意代理について具体的に例を挙げて説明しました。通常、法定代理は行為制限能力者をサポートするもので、自然人の所で講義しました行為能力の復習のような感じで言及しました。一方、任意代理は委任契約を原因として発生することが多く、委任状の交付や顕名の原則が重要ですので、この点に強調して説明したつもりです。さらに、高齢化対策といってもよい任意後



見契約、復代理人（副代理人ではない）、代理権に関する制限としての自己契約・双方代理の禁止や利益相反行為、代理権の消滅などにも言及しました。以上の説明で残り時間が少なくなりましたので、本日の重要な内容についてまとめよという趣旨の小テストを実施して終了としました。次回は狭義の無権代理と表見代理（両者を併せて広義の無権代理）について講義する予定です。なお、19日（火）に開催されますシンポジウムの準備のため、18日の講義だけはE-302講義室で実施して欲しいという依頼があり、来週だけは講義室を変更しますのでご注意下さい。」

**学生モニター J:**「今回の講義では主に代理について説明していただきました。代理関連で起こりうる問題で、無権代理と表見代理については違和感無く理解できました。講義の途中では表見代理も無権代理に含まれているようで、両者の定義がよくわかりませんでした。その疑問を見透かしたかのように広義には表見代理は無権代理に含まれるとの説明をいただき、納得できました。自己契約・双方代理の禁止や利益相反行為等についても理解しやすい内容であったように思います。また、委任契約で、近い将来使わなければならないであろう任意後見契約と言うものの存在を知ることができ、自分にとってたいへん有意義であったように思います。」

**学生モニター K:**「2006/12/11の講義を終えて。今回は、代理についての内容でした。代理には、法定代理と任意代理があり、任意代理とは、財産にかかわる行為を自己で処理できず、代理人に取引をしてもらわなければならない場合、法定代理とは、未成年者や被後見人などの制限能力者などの、代理が不可欠な場合、にそれぞれ必要な代理制度である、ということでした。また、代理権の範囲や、自己契約と双方代理の禁止、利益相反行為の禁止、代理権の消滅についての内容でした。先生の講義は、実生活に即した事例を用いての内容が多く、また、公務員試験等も視野に入れた講義ですので、受ける側もある程度ポイントを絞り、さらっと流すところは流す、という勉強方法を実践できるので、非常に有用な情報や、ちからの入れどころのわかる内容であると思います。」

#### 第10回 2006年12月18日

**吉田・掲示板:**「昨夜講義しました民法〔総則〕第10回講義について報告します。今回は翌日に開催される経済学部イベントの関係で、いつものE-101講義室ではなく、少し手狭なE-302講義室（経済学部講義棟の中では2番目に広いのですが）となりまして、受講生の皆さんに少し窮屈な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。これからシステム工学部の公開授業&検討会に参加しますので少し手短かに書きます。今回の狙いは狭義の無権代理と表見代理の二つを説明し、両者を併せて広義の無権代理であることを理解してもらうことでした。深く説明すれば非常に多くの時間を要する内容で、1回で片付けてしまうつもりでしたので、最初に基本的な概念について黒板を利用して説明し、それから、条文を逐条的に言及し、最後にテキストを眺めてもらい、最後に小テストで締めくくるという予定で、その予定通りにできたように思います。条文としましては、表見代理に関しては109・110・112条、無権代理に関しては113～117条を説明しました。また、無権代理と相続という問題についても詳細に解説したつもりです。今回が年内最後の講義で、1月は4回の講義をして2月5日に定期試験となる予定です。」

**学生モニター J:**「今回は前回に引き続き、無権代理と表見代理について講義していただきました。代理については特に理解に苦しむ概念は無く、わかり易かったように思います。相続についても特別不自然な内容も無く、理解し易く感じました。講義で割愛した部分についても理解しておきたいところですが、今はそこを理解する時間も予備知識も乏しい状態なので、いつか機会を作って勉強しようと思います。これが今年最後の講義になり、残すところあと1ヶ月となっていました。半期と言う事で半年と言うイメージを持っていましたが、実質4ヶ月で終わってしまうのはあまりに短すぎるように感じ、2単位の授業に学生の時には感じなかった物足りなさを感じています。」



学生モニター K：「2006/12/18 の講義を終えて。今回は、無権代理と、表見代理についてでした。無権代理の効果として、113 条・追認権と追認拒絶権、114 条・催告権、115 条・取消権、117 条・責任追及について。表見代理としては、109 条・代理権の授与、110 条・権限外の行為、112 条・代理権の消滅について。それぞれの条文に沿っての具体例を示しながらの内容でした。また、無権代理については、相続との問題についても、本人の死亡、無権代理人の死亡、それぞれについて、具体例に触れての内容でした。今回は、少しペースが速いこともあって、少しついていくのに苦労しました。今年の講義は、今回が最後ということですので、来年もよろしくお願いします。」

#### 第 11 回 2007 年 1 月 15 日

吉田・掲示板：「昨夜の民法〔総則〕第 11 回講義について報告します。1 月 30 日（火）が月曜の代替日となる第 14 回を除けば、残り 3 回の講義であり、時効に 2 回の講義を費やす予定ですので、無効と取消・条件と期限・期間の計算という 3 つの内容を確実に消化することが今回の狙いでした。まず、年末年始を挟んでの久しぶりの講義で、これまでの 10 回分の内容を忘れ去られているという心配がありましたので、前回の無権代理（表見代理を含めて）や、総則の初めの方の重要な内容である行為能力、総則の中で極めて重要な法律行為や意思表示などに言及して、振り返りをしながら今回の内容に入っていくように努めました。すなわち、制限行為能力者がした法律行為は取り消しすることができ、93 条の心裡留保・94 条の通謀虚偽表示・95 条の錯誤の場合は無効であり、96 条の詐欺及び強迫の場合は取り消しすることができるという説明の延長として、119 条～126 条の無効及び取消しに言及しました。そして、条件及び期限に目を移し、停止条件と解除条件、始期と終期、期限の利益とその喪失などを説明しました。最後に、期間の計算に入り、初日不算入の原則とその例外、年齢計算のやり方などに言及して、残り時間が少なくなりましたので本日の講義内容をまとめよという小テストを実施して終わりとなりました。次回は時効の前半部分を講義する予定です。」

学生モニター J：「本日は年末年始を挟んでの久しぶりの講義という事で、昨年の講義の復習を交えながらの講義をしていただきました。今回の新しい内容である条件及び期限については、停止条件と解除条件、始期と終期、期限の利益とその喪失などは理解できたのですが、期間の計算の根拠がよくわかりませんでした。なぜ原則として初日不算入であるのか、原則から外れて初日を算入するのはどのような場合なのか、具体的例ではなく例外処理する条件はどのような基準で判断されているのかが気になりました。具体例で挙げられていた年齢計算については、0 歳である日の数が 365 日を越えた時に 1 歳になるからと考えると初日を算入しなければならない事に納得できます。しかし、クーリングオフの期間について初日算入で 8 日間としたのはなぜなのかを考えると、初日に解約する事が可能であるからというのであれば原則として初日を算入とした方が自然なように思え、原則は初日不算入とされている理由に疑問が残りました。」

学生モニター K：「今回は、無効と取消、条件と期限、期間計算についてでした。無効と取消については、条文 119～126 条、条件と期限については、127～137 条、期間計算については、138～143 条、それぞれについて、条文を確認しながらの内容でした。無効と取消については、制限能力者が行った法律行為についての取消、詐欺と脅迫についての取消、法定追認、無効と取消の相違点についてでした。条件と期限については、始期と終期、停止条件と解除、期限の利益とその喪失についてでした。期間計算については、初日不算入の原則と、その例外、年齢計算についてでした。」

#### 第 12 回 2007 年 1 月 22 日

吉田・掲示板：「未だ講義前ですが、20 日（土）・21 日（日）の大学入試センター試験のために疲労困憊で、さらに明日の 23 日（火）は観光学科の推薦入試のために 7 時 30 分出勤となっており朝早く起床する必要がありますので、講義前に本日の計画を掲載します。時効に関して今回と次回 2 回を費やす予定であり、

最初に時効の意義を説明して、取得時効と消滅時効の相違を理解してもらい、それから、条文を逐条的に具体的な例を挙げながら、分かりやすく説明したいと思っています。144条から174条の2までが時効ですが、その途中で時間となるのではないかと思っていまして、小テストの今回は実施しないかもしれません。なお、29日に時効の残りを説明し、余裕があれば民法の基本原則や私権行使の原則などに言及しようと思っています。」

学生モニターJ：「本日は時効について講義していただきました。交通事故による損害賠償の時効の部分では、昨年、交通事故に遭い、損害賠償請求の小額訴訟を行った事を思い出しました。その時の保険会社の話では確か『時効は7年』と言っていたように記憶しているのですが、実際は3年との事なので驚きました。保険屋が何をもって7年と言ったのかは不明ですが、保険会社の担当者はどこまでも適当であると再認識しました。この時、被害が中途半端な額のケースでは損害を回復するのは非常に難しいと言う事実を身をもって知りました。初日不算入ならば明日の夜でちょうど一年になるので、時効まであと2年です。」

学生モニターK：「今回は、時効についてでした。時効には、取得時効と消滅時効があり、それらの法的構造と、具体例にふれた後、民法144条～161条で、時効の効力（144）、時効の援用（145）、中断理由（147）、裁判上の請求（149）、催告（153）、承認（156）、中断後の進行（157）、天災による停止（161）、の内容についての確認でした。時効の利益を得るためには、時効が完成し、かつ、時効を援用しなければならい、という点は非常に興味をひかれました。」

### 第13回 2007年1月29日

吉田・掲示板：「昨夜講義しました民法〔総則〕第13回講義について報告します。

前回に引き続き時効を説明し、もし時間的余裕があれば民法の基本原則や私権行使の原則も説明する予定でしたが、時効しか説明することができませんでした。前回は、144条～161条の逐条的解説で時間切れとなりましたので、今回は162条～174条の2を逐条的に解説し、その後でテキストの重要な部分を指摘し、特に定期試験で出題するつもり箇所を強調しました。そして、おそらく11回目となる小テストを実施、内容は前回と今回の2回にわたる時効についてまとめよという趣旨でした。また、本日・1月30日は火曜日ですが、授業回数の関係から月曜日の代替日とされておりまして、6限（19時10分開始）が最終講義となります。内容は定期試験対策ということにしておりますが、民法総則の重要な部分をまとめる予定です。火曜日は仕事の関係で来学できないという受講生もいると予想されますので、小テストは実施しませんが、興味のある人は受講して下さいと以前から申し上げております。なお、最終講義の報告は定期試験問題と非常に密接な関係がありますので掲示板で報告は致しません。最後に、単位をほしい受講生は定期試験で頑張ってください。熱心に受講してくれた人、本掲示板をご覧いただいた人、有難うございました。心より御礼申し上げます。」

学生モニターJ：「今回は前回に引き続き時効について講義していただきました。概ね理解できたのですが、第161条について違和感が残りました。確か講義の例では『9年10か月経過した時点で天災が発生し、時効の中断手続きができない場合、9年13か月（障害消滅時）+2週間+2か月が時効となる』であったと解釈しているのですが、条文を読む限りでは『障害が消滅した時から2週間』とあるので、9年13か月+2週間で時効となるように思われるのですが、講義の理解もしくは条文の解釈が間違っているのでしょうか？ また、テキストでも指摘されているのですが、条文の『満了の時に当たり』が指す期間が、本来の満了前何日間を指すのか明確ではなく、テキストでも『天災・事変後、2週間延長される点を重視し…〈中略〉…説もある』とあり、運用面でどのような扱いになっているのか明確ではないため、実際の運用ではどのようなのかという疑問が残りました。」

学生モニターK：「2007/1/29の講義を終えて。今回も前回に引き続き、時効についてでした。取得時効に

ついて、162～164条を、消滅時効については、166～174-2条について、それぞれ条文を確認しながらの説明でした。また、消滅時効については除斥期間との違いについてもふれ、時効には3つの存在理由があり、1. 社会の法律安定、2. 権利の上に眠る者を保護しない、3. 証明の困難を救済する必要があるということ、また、時効の利益を得るためには、時効が完成し、かつ、時効を援用しなければならない、ということと、(連帯)保証人について、という援用に関する内容についても、テキストを用いての説明でした。また、時効の中断については、裁判上の請求と、催告について、時効の停止についても、それぞれテキストを用いての説明でした。今回が実質最後の講義となりました。予備知識がほとんどないまま授業を受けることとなりましたが、実生活に沿った内容であったり、条文についても非常にわかりやすく噛み砕いてのご説明でしたので、非常にわかりやすく、興味を持って授業に臨むことが出来ました。正直、総則だけではなく、もっと幅広く民法を学びたいと感じました。」

#### 第14回 2007年1月30日(火) 一火曜日であるが月曜の代替日となった

##### 定期試験について事前の解説

「以下の9個の問題のうち、5問以上(全問解答しても差し支えない)について解答せよ。内容面で明白な誤りを書いた場合、その部分は無記入扱いとする。もし、全体の分量が少ない場合は単位を欲しくない者と認定し、直ちに不合格とする。

- 1 制限能力者の制度について分かりやすく説明せよ。
- 2 法人格否認の法理について分かりやすく説明せよ。
- 3 民法87条(主物と従物)と88条(天然果実と法定果実)を分かりやすく説明せよ。
- 4 公序良俗違反と不法原因給付について具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。
- 5 詐欺と強迫に関する民法96条の第1項と第3項とを具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。なお、第3項の反対解釈を書き忘れないこと。
- 6 表見代理に関する民法109・110・112条について具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。
- 7 無権代理と相続について具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。
- 8 取得時効や消滅時効に関して、その意義と存在理由について具体的にわかりやすく論述せよ。
- 9 時効の中断事由としての請求と催告について、その相異に特に注意して、具体的に例を挙げて分かりやすく説明せよ。」

学生モニターJ:「難易度についてはどの程度の記述でどれだけ評価されるのかの基準が明確ではないので、安易に論じる事はできませんが、講義との相関については、全て講義していただいた内容そのものであるもので、応用が必要となる問題は無く、テキスト及び六法並びにノートのコピー等の持ち込みが可能であれば問題無く記述できる内容であるように思われます。本当に理解度を問うのであれば、講義とは異なる具体例を挙げて結果を問うような、応用が必要な問題を交えた方がより効果的であるように思われます。」

同じく学生モニターJが別メールで:

「問1について

制限能力者の概要についての問いであるので、制限行為能力者の種類及びその名称が制定された背景、それぞれの定義と取り消し可能な範囲までを回答できれば正解をいただけると推察します。

問2について

法人格を隠れ蓑にして不当な利益を獲得する事を防ぐ法律の原理であり、講義では子会社の解散による不当解雇が例として挙げられていたように記憶しています。法人格否認の法理については、テキストに出しがなく、講義に出てノートを取っていなければ答えられない問題だと思われます。

## 問3について

主物とは取引の具体的対象を指し、従物とは一般的に主物に付随していると認められる物を指す。具体的には家屋を取引した場合、建物そのものが主物、畳や建具等は従物であり、従物は、特に理由や意思表示が無い限り主物と共に所有権が移転される。天然果実とは土地から採れる果物や鉱物等、主物から産出される物品を指し、法定果実とは土地を貸し付けている場合の借地料等、主物を利用することによって産出される貨幣性資産を指す。

この問題はテキストでも取り上げられている範囲が狭く、範囲を絞り込み易い反面、内容が少ないだけに記述量を要求されると辛い問題であると思われます。

## 問4について

公序良俗違反とは明確な規定は無いが、公の秩序・善良な風俗に反する契約を指し、民法ではこれを無効としている。不法原因給付とは不法な原因で給付した者は返還請求できない事を規定している。これは不法行為者をいかなる形であれ保護する事は適切ではないと言う考え方による。例えば男Aが女Bに愛人契約をして現金を支払ったが女Bが契約を履行しなかった場合、愛人契約は公序良俗違反で無効であるため、A男はB女に契約を履行させる事はできない。また、B男がA女に現金の返還を請求した場合、A女にとってその現金は不法原因給付であるため、返還するこれを義務を負わない。

この問題はテキスト104頁の(3)をそのまま書き写す事でも回答できるように思われますし、それで不正解にされると辛い問題で、テキストとは異なる例を挙げるように指示すべきであると思われます。

## 問5について

AがBに土地を売却する契約を結び、登記による所有権の移転を行ったにもかかわらずBが代金を支払わなかった場合、Aは詐欺による意思表示の無効を主張し、土地を取り消す事ができる(第1項)。ただし、Bが既にCに対して土地を売却していた場合で、Cが善意無過失であった場合、AはCに対して土地の返還を要求できない(第3項)。上記の契約が、BのAに対する強迫による場合、AはCに対して土地の返還を請求できる(第3項の反対解釈)。

具体的な項目名、条項数が解ればテキストと六法だけで書いてしまいます。テキストの見出し語に無い「瑕疵ある意思表示」と言う言葉を用いた方が理解度を問えるように思われます。第3項については強迫と詐欺の違いとして注意すべき点であるので「善意の第三者に対する権利について」等としておいてもよろしいかと思われます。

## 問6について

AがBに対して「Cに土地の売却について代理権を与えた」旨を伝え、BがCからAの土地を購入した場合、実際にCに代理権が無くともAはBに対して土地の返還を請求できない。ただし、Bが善意無過失の場合のみ適用される(109条)。上記の例で、CがAの代理ではあるが、代理契約の対象としている土地とは別の土地をBに売却した場合も上記に準ずる(110条)。Aの死後にCがBに土地を売却した場合で、BがAの死を知らなかった場合、Bは土地を取得する事ができる(112条)。

## 問7について

Aがその父Bの無権代理としてBが所有する土地をCに売却し、CがBの追認を得る前にBが死亡した場合が問題となる。この場合、Cの追認要求をAが拒絶する事は信義則に反するためできない。単独相続・共同相続の場合共、Aは可能な限り契約を履行する責任がある。

基本的には上記のように理解していますが、相続には単独相続の場合、共同相続の場合等、それぞれについて詳細な例を挙げて説明するには記述量が膨張するため、そこまでの回答を要求されるのであれば9問の中では比較的困難な問題になっていると思われます。

## 問8について

時効とは、ある事実状態が一定期間継続した場合、その状態に即して新たな権利関係を形成する制度である。例えば、AがBの土地を自分の土地であったと思い、売却し50年経過してからBがその土地の権利を主張したとしても、その土地はAの手を離れC→D→Eと権利が移転していた場合、Eに対して権利を主張したとしても土地の権利関係がわからず、不安定な状態になるため、一定期間経過する事により新しい所有者に所有権を移転させ、権利関係を安定させる。

## 問9について

Aが飲み屋Bに対する付けがある場合、消滅時効は1年である。しかし、11ヶ月経過した時点でBが裁判上の請求を行うと、時効は中断され、この時点から新たに1年の時効が進行し、付けが発生した時点から23ヶ月経過時に時効となる。上記の例で、裁判上の請求に代えて裁判外の請求（催告）を行う事で、時効は暫定的に中断されるが、17ヶ月経過するまでに裁判上の請求を行う等、一定の手続きによる補強を必要とする。

問8と問9は講義の終盤の内容で、比較的記憶に新しく、記述し易い問題であるように思われます。」  
学生モニターK：「問題内容についてですが、授業で数多く取り上げ、何回も口にした言葉が並んでいることから、授業内容をよく把握していれば、問題の意図するところ（先生の期待している回答）は、簡単に理解できると思います。また、条文の内容をかみ砕き、授業内容で用いた具体例を挙げて記述できれば、なんら難しいことはなく、毎回の小テストを再度きっちりまとめるように記述出来れば、誰が読んでもわかりやすい回答になると思います。とはいっても、法律用語については条文を丸写しし、具体例については、言葉少なめにテキストの図解を流用するような回答もあるかもしれません。授業との相関ということに関しては、なんら疑うことなく、毎回の授業内容で口をすっぱくして時間をかけて説明された内容だと思いますので、授業をきちんと聴いてさえすれば、難しいとか、授業とかけ離れているとか、考えることなく問題文を読むことが出来ると思います。選択性のテストということであれば、10問目に問題そのものを学生に作らせ、自身で回答させる、という設問があってはいかがでしょうか？ 半年間授業を受けているのですから、世の中の出来事から、民法総則と関連した出来事を自身で探し出し、それに対して、条文等を用いて記述させる、というのはいかがでしょうか？ 自身で見つけ出し、考える力のある学生であれば、真っ先にその問題から回答すると思います。もちろん、採点する先生のお立場から考えると、採点しづらい面があるかもしれませんが…。」

## おわりに

本研究ノートにおいては、単発的に教職員が授業を参観して、その終了直後に検討会を実施する取り組みを公開授業&検討会と定義し、他方、講義者以外の教員または学生が継続的に授業を参観し、講義者が運営するホームページ上の掲示板と電子メールなどで授業に対する意見や感想の遣り取りをする取り組みを授業参観プロジェクトと定義した。そして、授業改善を図るにあたり、公開授業&検討会は極めて効果的であるが、具体的な運用面・実行に当たっての可能性・難易度等を考慮すれば、授業改善に取り組むに当たって学生参加型の授業参観プロジェクトがもたらす効果ならびに有益性は公開授業とその検討会に勝るとも劣らないものであると考えた。



前述したことではあるが、受講生の中に当該授業に取り組む意欲の非常に強い学生がいる場合、その学生の意見を聴くことは授業改善に非常に有効である。毎回当該授業を熱心に聴講している学生の場合には、単発的にしか受講できない大学教員よりも、当該授業に対する観察力は鋭いと言えるかもしれない。授業改善を進めていくためには、教員側の改善に関する努力・工夫と、受け手である学生側の改善に関する関心、意欲の調達、態度の向上という双方からのアプローチが必要かつ不可欠である。

なお、筆者は学生による授業評価の効果については懐疑的である。FD といえば学生による授業評価を実施することであるとみなされる傾向も強かったが、近年では公開授業実施に踏み切る大学が多く、授業改善に対する効果が強く認識されるようになってきている。すなわち、従来はFD といえば学生による授業評価のことだけを指す時期があったと言っても過言ではなかった。また、大学の外部評価（第三者評価）においては必ずといってよいほど学生による授業評価を実施することが要求される。しかし、果たして学生による授業評価は一般に期待されているほど授業改善に有効なのであろうか。もし、毎回、実施できれば授業の振り返りに非常に有意義であると思う。また、全く授業改善に取り組まない教員に対する相応の効果は存在すると思われる。しかしながら、率直に言って、半年に1回の学生による授業評価が授業改善にどれほどの効果があるのか、極めて疑問であると言わざるを得ない。すなわち、学生による授業評価は、その多くが半期に1度だけ、それも大抵は学期末に実施し、一定時間経過後、その結果が返送されるのが通常であり、フィードバックされても当該授業を受けてアンケートの回答をしてくれた受講生に対する反射的效果が実質的に得られない。

最後に、法学を修得するための動機付けとして裁判の傍聴があり、実際に受講学生を和歌山地方裁判所の引率している。この点についても言及したかったが、予定の紙幅を超過しているので別稿にて取り上げてみたい。

## Improving Lectures on General Provisions of Civil Code

Masaaki YOSHIDA

### Abstract

General provisions of the civil code are very difficult to understand. Two attempts were made to improve the lessons taught in civil law lectures. As the first attempt, a lecture was presented in front of other professors and a study meeting was conducted afterward. Subsequently, as the second attempt, the contents of the lecture were posted on an online bulletin board system (BBS), and students were invited to discuss the contents.